

学校法人 同志社
事業報告書
2015

創立150周年に向かつて——同志社ブランドの強化

One purpose, Doshisha, thy name

Doth signify; one lofty aim;

To train thy sons in heart and hand

To live for God and Native Land.

Dear Alma Mater, sons of thine

Shall be as branches to the vine;

Tho' through the world we wander far and wide,

Still in our hearts thy precepts shall abide!

The Doshisha Social Responsibility Report 2015



学校法人 同志社
<http://www.doshisha.ed.jp/>



官許同志社英学校として1875年に始まった同志社は、2015年11月に創立140周年を迎えました。創立以来、多くの困難を乗り越えて教育・研究活動を続け、現在では約4万3400名の学生・生徒・児童・園児が学ぶ「一大総合学園」に成長し、進化を続けています。これもひとえに、保護者や卒業生をはじめ、地域や行政機関、企業、一般市民の方々からの温かいご支援・ご指導があったからこそと、感謝しております。

2015年は創立140周年に際して、未来への礎とするための記念シンポジウムや記念式など様々な行事を開催しました。良心教育に関するシンポジウムは3回目を開催し、さらに大学では良心学研究センターが設置されて早くも様々な活動を始めています。これらによって良心教育を中心とする「同志社ブランド」の強化が進むことが期待されています。

学校法人同志社は、今後も教育・研究に関する改革を推し進め、健全な学校法人運営を維持するため、すべてのステークホルダー（利害関係者）の皆様に対して、情報公開を徹底してまいります。

本報告書によって、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションが、より一層促進されることを心より願っております。

2016年5月28日
学校法人 同志社

本報告書の対象範囲
同志社法人部、ならびに大学から幼稚園までの各校。数値・金額にはそれぞれ対象範囲を付記しています。

本報告書の対象期間
2015年4月1日～2016年3月31日
(一部、上記期間以前または以後の状況についても記載しています)

学校法人 同志社 事業報告書2015

2016年5月28日発行
発行：学校法人 同志社
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
URL <http://www.doshisha.ed.jp/>

無断転載を禁止します。
All Rights Reserved.
Printed in Japan ©The Doshisha
The Doshisha Social Responsibility Report 2015

お問い合わせは
学校法人同志社 法人部法人事務部法人事務室
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
TEL 075-251-3006
FAX 075-251-4980
E-MAIL ji-hojin@mail.doshisha.ac.jp

Contents

目次

教育理念	3
法人内各学校	3
■ 大谷 實 総長からのメッセージ	4
創立150周年に向け、 同志社ブランドの強化を推進	
■ 水谷 誠 理事長からのメッセージ	5
同志社の未来に向けて 新たな取り組みに着手	
■ 同志社大学長インタビュー	6
「良心」を基礎に据えた教育を 広く社会に浸透させていきたい 同志社大学 松岡敬学長	
■ 同志社女子大学長インタビュー	7
学生も教職員も共に学び合う 女子総合大学を目指す 同志社女子大学 加賀裕郎学長	
■ 事業の概要	8
同志社大学	8
同志社女子大学	12
同志社中学校・高等学校	14
同志社香里中学校・高等学校	15
同志社女子中学校・高等学校	16
同志社国際中学校・高等学校	17
同志社小学校	18
同志社国際学院	19
同志社幼稚園	20
同志社大学2015年ハイライト	21
同志社女子大学2015年ハイライト	22
各学校2015年ハイライト	23
■ 法人の取り組み	25
■ 【特集1】 創立140周年記念事業	26
新たな未来への礎として 豊富な記念行事を開催	
■ 【特集2】 良心教育に関するシンポジウム	27
「良心」をどのようにして育てるか 中高での良心教育の在り方を探る	
■ 【特集3】 グラフで見る同志社	28
■ 財務の概要	30
概況	30
資金収支計算書	30
事業活動収支計算書	32
貸借対照表	34
財務比率	36
学校別の状況	37
2016年度の事業計画	38
■ 法人の概要	39
理事、監事、評議員、沿革	

教育理念

同志社は、1875(明治8)年、新島襄によって創立された、わが国有数のキリスト教主義の学園です。創立当時の生徒はわずか8名でしたが、現在は同志社大学、同志社女子大学のほか、4つの高等学校、4つの中学校、小学校、国際学院と幼稚園を含む総合学園となり、学生・生徒・児童・園児は約4万3400名、教職員は2000名を超えています。また30万名を超える卒業生は、経済・政治・宗教・教育・社会事業など多方面で社会のために活躍しています。

新島は同志社の教育目的を1888(明治21)年、全国に発表した「同志社大

学設立の旨意」の中で、次のように述べています。

「(同志社設立の)目的とする所は、独り普通の英学を教授するのみならず(中略)、其精神を正大ならしめんことを勉め、独り技芸才能ある人物を教育するに止まらず、所謂の良心を手腕に運用するの人物を出さん事を勉めたりき」(*)

新島は、知育、体育だけでなく徳育を含めた「知・徳・体」の調和ある教育の実践を理想としていました。教育を通して生徒・学生が、型にはまらず自立心と才能あふれる個儻不羈なる人物として、「自治自立の人民」「一国の良

心」となることを究極の目的としました。

同志社では新島の建学の精神を受け継ぎ、キリスト教主義、自由主義、国際主義を教育の重要な柱としています。また、生徒・学生の個性や自発性を尊重し、全人教育を通して広い視野から現状分析と将来展望を持って行動することのできる人間、自らの良心に従って生きる人間、新島の言う「自治自立の人民」の育成を目指します。グローバル化が進む21世紀では、ますます新島の建学の理念が、そして同志社教育が重要性を増すことでしょう。

(*)「同志社大学設立の旨意」『新島襄全集』より

法人内各学校



(2016年4月現在)



おお や みのる
大谷 實
総長からのメッセージ

*Message from
Chancellor*

創立150周年に向け、 同志社ブランドの強化を推進

—— 2015年は同志社創立140周年を迎えました。

1874年に約10年間のアメリカ留学から帰国した新島襄は、1875年11月29日、宣教師デイヴィスと8名の生徒で同志社英学校を開設しました。「同志社」という学校名は、新島の協力者・山本覚馬の発案であり、「目的を一つにする同志の結社」という趣旨で付けられました。

創立から140周年を迎え、今度は創立150周年に向けて、幼稚園から大学院までを擁する総合学園として、一貫教育を全学的・組織的に推進していきます。さらに学力の向上と情操の陶冶に向けて、ソフト面の整備をより充実させ、教育・研究の水準を世界のトップレベルにまで引き上げなければなりません。

2016年は、新島がアンドーヴァー神学校付属教会で洗礼を受けてから、150年になる年です。そして大学と女子大学の田辺校地（現・京田辺校地）が設置されてから30年目に当たり、さらに小学校が開校されてから10年目、国際学院が開校されてから5年目に当たります。こうした節目の年に、新島

の激動の人生と志に、改めて思いを馳せたいと思います。

—— 「英語の同志社」の復活に向けて、継続した取り組みのほか、新しい取り組みもあるのでしょうか。

2011年に元オムロン代表取締役会長の立石信雄氏から、「法人内中学校・高等学校における英語力強化」を趣旨とした多額の寄付をいただきました。これを「立石ファンド」として、法人内4中高の先生方にプログラムの策定をお願いし、実施を進めています。このプログラムの一つである「同志社中学生・高校生英語大会—立石杯—」は、今年で5回目の開催となりました。「同志社中学生・高校生英語プレゼンテーション大会—立石杯—」は2回目を開催し、いずれも定着してきました。

立石氏からはさらに幼稚園と小学校段階での英語力の強化を含めたかたちで、立石ファンドの継続したお申し出をいただいています。

こうした強力な支援の下、かつて巷で評された「英語の同志社」の復活を目指したいと願っています。

—— 法人内各校のスポーツ交流が盛んになっています。

前年度は課外活動の一貫した指導を担う指導者として、ラグビー、サッカー、剣道で計4名に委嘱しました。また法人内の7クラブが定期的な交流戦を実施しており、優勝校には総長杯を授与しています。特に大きな成果としては、大学ラグビー部が8年ぶりに関西大学リーグで優勝を果たしました。中高段階からスポーツの強化を行い、大学への連携を深めることで、今後のさらなる活躍と成果を楽しみにしています。

—— 「同志社ブランド」の強化についてはいかがでしょうか。

現代に欠けていると言われる徳育を強化するため、同志社ブランドの中心となる良心教育をさらに鮮明に打ち出すことが重要です。

具体的にはまず、3年続けて開催した「良心教育に関するシンポジウム」です。昨年度は中高段階での良心教育の在り方にスポットを当てて実施しました。さらに大学には「良心学研究センター」が設置され、早くも精力的な活動をしています。良心を様々な領域から研究するという、画期的な取り組みに大いに期待しています。



みず たに まこと
水谷 誠
理事長からのメッセージ

*Message from
Chairperson*

同志社の未来に向けて 新たな取り組みに着手

——同志社の各学校では新たな取り組みに着手しています。

学校を取り巻く環境は、大きく変わってきています。日本国内は少子高齢化の波に洗われ、学生・生徒・児童・園児の数が減少の一途を辿っています。その一方で、グローバル化の進展により、国際的にリーダーシップを発揮できる人々を育成することが学校に求められています。

同志社の各学校は、こうした社会の変化に伴う要請に応えながら、「キリスト教主義」「自由主義」「国際主義」の三つの基本的精神に基づきつつ、「良心を手腕に運用する」人物の育成に努め、各学校が同志社一貫教育の理念のもとで、相互協力、相互交流を発展させ、社会に貢献していくことのできる真の同志社人を育成しようとしています。それに加えて大学、女子大学では「学問の仕上げ場」を目指した創立者の志を受け継いで、第一線の研究活動を展開する努力を続けています。

同志社大学は、2015年に「ビジョン2025」を発表しました。2016年度は新学長を迎えて、創立150周年を迎える2025年を展望しつつ、その「中期行動

計画」のための具体的な方向性が定められようとしています。同志社女子大学は、すでに2012年から5年間にわたる「将来構想に向けた方策・方針」を発表し、教育・研究の改革を実行してきましたが、さらに1875年の同志社英学校創立の翌年に出立した女子部の創立150周年を迎える2026年に向けて新たな「Vision150(仮称)」の策定を予定しています。

2010年に統合を果たした同志社中学校と同志社高等学校では、統合の実質化を求める努力が続けられています。また京都において最も古い歴史を有する同志社幼稚園の新たな展開を可能にする将来構想が検討されました。

——各校地のキャンパス整備が完成に近づいています。

近年のキャンパス整備によって、同志社大学はリベラル・アーツ教育を軸にした人文・社会系の今出川校地、文理複合教育、国際的先進的な教育研究に軸足を置いた理工・生命医科学系の京田辺校地と、それぞれが目指す教育研究の方向が明確になっています。この両校地の教育研究においても、相互協力、相互交流が不可欠であり、それ

を推し進めることが両校地のさらなる発展につながることでしょう。

同志社女子大学は、2015年京田辺校地に看護学部を設置しました。京田辺校地では薬学部とともに医療系教育研究の整備を進めています。今出川校地では、女子中学校・高等学校とともに環境整備事業が進められています。2017年にはラーニング・コモンズを有するとともにアメニティにも意を用いた新築真館(仮称)が完成します。女子中学校・高等学校では新しい「希望館」が完成し、2016年春より活動を始めます。

現在、同志社の各学校の事業は自己資金で賄われていますが、少子化に伴い財政事情はますます厳しくなっています。そのような中で、各学校はそれぞれの観点から創意工夫を重ね、同志社を選んで入学してくる人々の増大を願い、創立150周年とその後の同志社発展に向けた構想を展開しようとしています。キリスト教的人間理解を土台として「良心を手腕に運用する」人々を育成するという建学の精神を涵養することが改めて求められています。

(クラーク記念館にて)

「良心」を基礎に据えた教育を 広く社会に浸透させていきたい



——新学長としての抱負をお聞かせください。

私自身、同志社大学工学部（現・理工学部）、大学院工学研究科（現・大学院理工学研究科）の卒業・修了生で、教員としても長年務めさせてもらってきました。その私ができることを自問自答してみた結果、「良心教育」を教育の根幹に据えた新島襄は何を実現したいと思ったのか、学生をどう育てようとしたのか、そこを原点にして大学運営に当たることに尽きるだろうと考えました。そのためには、教員は学生とどのように向き合い、教育・研究に取り組むか、職員は学生の悩みや不安などをいかにくみ取り、それを仕事の中に反映していくか、その一つひとつに心を込めて取り組んでいただきたい。そしてトップたる私はそのための土壌、土台を作り上げていく。同志社で教育を受けたからこそ、そうしたことができるのではないかと思います。

自分の心の中を正確に相手に伝えていけば、そこに信頼感が生まれてきます。それが良心につながると信じていますので、自分の生き方をどんどん語っていくつもりです。

——「ALL DOSHISHA」の精神で学内の交流の活発化を目標に掲げています。

同志社大学には14学部と16研究科

があります。この、合わせて30の「チーム」があることが同志社の大きな魅力の一つであり、チーム同士が連携を図っていくことをポイントに置いています。

例えば、教員には同じ系統の科目を教え、同じ領域の研究をしている人がいる。そうした研究を一つにまとめれば、新しい研究を生み出すことができます。そのように教育・研究を通じての連携を強化したい。同志社大学ならばそれができるはずで。

学生と教職員の交流については、お互いが自由に語れて人間教育につながる場をもっと増やしていかなければなりません。例えば現在実施しているフレッシュャーズキャンプのような機会を何らかのかたちで増やしていきたいと考えています。

——同志社大学の魅力を志願者や保護者にどう訴えていかれる予定ですか。

学部・研究科の30ものチームの中にある先生方の学問領域、研究領域を一例に並べると他大学にはないスケールとパワーになります。これはすなわち、同志社で学べる領域は非常に幅広く、専門分野以外に人間としての教養を高めていく科目が充実しているということです。これを受験生や保護者にしっかりとアピールしていくつもりです。それも単に学部・学科を見てもらうだ

けでなく、大学全体の組織力と教育力を訴えたいと思っています。

——創立150周年を見据えてのビジョンをどのようにお考えですか。

例えば私の専門は材料工学で、この分野を教える大学は同志社以外にもたくさんあり、学ぶ内容もそれほど違いはありません。しかし同志社が一つ違うのは、単に専門領域の知識を高めるだけではなく、人間教育を重視しているということです。卒業生・修了生が三十数万人いて、社会の様々な分野で活躍されています。経営者として多くの社員を育てている人も少なくありません。そうした方々が社会に貢献し、それで同志社が評価されているのならば、同志社の教育は正しいということです。

先輩方にお会いすると「最近になって新島先生の思いがなんとなく分かりかけてきた」「良心教育を基礎に据えた同志社で学んで良かった」という言葉をよくお聞きします。これが同志社の底力です。それならば、同志社の建学精神である「良心教育」を、他の教育機関でも学生を育成していく上での基礎に据えていただいてもいいのでは、とすら思います。150周年を迎えたとき、良心を基礎に据えた教育が広く社会に浸透しているのが、私の今の夢です。

（同志社礼拝堂にて）

学生も教職員も共に学び合う 女子総合大学を目指す



—学長に再任され、2016年4月から3期目に入ります。

学長に就任して以来、私は一貫してキリスト教主義、国際主義、リベラル・アーツという同志社女子大学の教育理念に基づき、教育・研究活動を通して、豊かな社会づくりに貢献できる女性の育成に力を注いできました。これをベースに女子総合大学として本学全体を「学習するコミュニティーの場」と位置づけ、学生も教職員も共に学び合う共同体として作り上げていくことを目標に、教育の質の高度化、研究の質の高度化に取り組んでいます。

—キャンパスの整備を進めるとともに、看護学部看護学科を新設しました。

教育・研究環境の整備も順調に進んでおり、15年夏には今出川キャンパスに食物栄養科学科が使用する新心館が完成しました。16年度からは、能動的学習を促すためのラーニング・コモンズを設置した新楽真館（仮称）の建設にかかり、キャンパス整備はいよいよ仕上げ段階に入ります。京田辺キャンパスに関しても、もう一段の充実を図るため今年から来年にかけて整備を進め、それと併せて学科のカリキュラム改正も行う予定です。

看護学部は、15年度に定員80人に対して約1800名の志願者があり、2年

目の16年度はそれを上回る志願者がありました。学部の開設とともに完成した蒼苑館は、1階に薬学部の研究室、2階から4階には看護学部の専門分野ごとの実習室を設置しています。看護学部と薬学部とのコラボレーションを意識してつくった施設であり、2階にはチーム医療も学べるプラクティカル・サポート・センターを設置しています。

看護学部が立ち上がって2年目を迎え、大学院の設置も視野に入れています。大学院を新設するにあたっては、現役の看護師の方々や社会人も受け入れて、研究者や指導者を養成したいと考えています。現在、淀川キリスト教病院と協定を結び、協力したプログラムを展開しており、プログラムがうまくいけば、これをモデルにして京都南部から奈良北部にかけての地域医療をトータルに支え、社会貢献もしていきたいと考えています。同時に、それは学生の学びの場にもなります。

—開学150周年に向けて策定中のビジョン150についてお話しください。

社会の礎になって活躍する女性を育むために、向こう10年間を見据えたビジョン150の中心になるのは、「ケアに関わる教育・研究」「地域社会との連携」「アクティブ・ラーニングの推進」「アジアに目を向けた国際化」です。その一

環として、卒業生が生涯にわたって社会的役割を担い、能力を発揮できるよう支援するために、15年は女性アクティベーションセンターを立ち上げました。16年4月には、当センターが中心になって、卒業生はもちろんのこと、広く社会一般の方々に勉学の機会を提供し、生涯学習を促進する履修証明制度を新設しました。

—地域社会、国際社会との連携にはどのように取り組んでいきますか。

地域社会との連携に関しては、自治体や企業との連携を進めています。16年3月には日本航空と包括的連携協定を締結しました。教育・研究・文化などの分野で社会の発展と教養豊かな国際人材育成に寄与することを目的として、学生・教職員と社員の相互交流、学生の人材育成・キャリア形成に資する支援を行います。

アジアに目を向けた国際化につきましては、15年にタイの1大学、台湾の2大学と協定を結び、学生の交流、留学生の受け入れを開始しました。2年ほど前から取り組み始めた半年間の留学制度も、少しずつ実績を上げつつあります。これから女子総合大学としての同志社女子大学は、ますます存在感を高めていくはずで

（栄光館瞑想室にて）

同志社大学

創立150周年を迎える2025年に向かって 具体的な取り組みを策定・推進



■ 創立	1875年
■ 所在地	〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町601 TEL：075-251-3110 〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3 TEL：0774-65-7010
■ URL	http://www.doshisha.ac.jp/

同志社大学は財政基盤の安定化を図りつつ、社会の動向やニーズをとらえ、創立150周年、さらに200周年も見据えた教育・研究を推進しています。

創立150周年を見据えた 「同志社大学ビジョン2025」を策定

2025年に迎える創立150周年を見据えて、「同志社大学ビジョン2025」を策定しました。ここでは、これからの約10年間に同志社大学が優先的に取り組むべき課題について、近年の高等教育界の状況を踏まえつつ、必要性の高い6つを挙げています。そしてこの理念を示すスローガンとして『Doshisha Way— for 2025—「揺ぎない志」とともに』も設定しました。

6つの優先課題については以下の通りです。

1つ目は、「より質の高い教育を提供

するための学修環境の総合的改革」です。留学、インターンシップとの両立や課題解決型学習 (Project-Based Learning) への参加など多様化する学習スタイルに対応できるアカデミック・カレンダーを編成し、単位制度の趣旨に基づいた学習環境を構築します。

2つ目の「充実した大学生活を過ごすための環境整備の強化」では、学びや人的交流の場としてふさわしいキャンパスを創造します。ICT (情報通信技術) 化の推進やバリアフリーの徹底、リスクへの対応なども推進します。

3つ目は「あらゆる境界を越えた同志社らしい研究活動の展開」です。総合大学である強みを生かし、既存の研究分野や学問領域を越えた学際的な研究活動を展開し、産官、他大学・研究機関、地域との連携を一層推進します。

4つ目は「同志社が求める人物を獲得するための高大接続プログラムの開発」です。本学が求める人物像を明確に示し、その人物育成に関与する高大接続プログラムを開発します。また入学選抜制度を検証していきます。

5つ目は、本学の基本理念の一つである『「国際主義」の具現化』です。教育や研究だけでなく、卒業生との連携、社会貢献、学生支援、管理運営などでもハード・ソフト両面でグローバル化への対応で世界をリードします。

最後は「本学の活動の積極的発信と同志社ブランドの確立」です。教育・研究活動や取り組みを広く社会に発信し、キリスト教主義教育を徳育の基本とする「京都の伝統ある私学」としてのブランドイメージを確立します。

国際主義を具現化する 取り組みが評価

昨年度に引き続いて、文部科学省「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援 (Go Global Japan)」事業に取り組み、留学を含む教育を実践する「留学型」と国内にいながらグローバル人材と成り得る教育を実践する「国内型」の2つの独自プログラムは順調に展開することができました。16年度に向けてグローバル教育センターの開設準備を行い、外国人留学生との少人数の共修環境における英語による国際教養教育科目の拡充、さらに同志社大学英語集中プログラムを策定しました。

12年度の文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」事業に採択された「グローバル・リソース・マネジメント (GRM)」は中間評価があり、「計画どおりの取り組みであり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる (A評価)」という高評価を得ました。

具体的には、「当初の理念・目的に沿った体制の構築と各種取り組みへの

努力・工夫「現場で実効的に生かすことのできる技能の習得を目指す意欲的なプログラムであること」といった点が評価されました。

良心学研究センターが開設

15年4月、同志社教育の原点である「良心」を研究する組織として、「良心学研究センター」が開設されました（センター長：小原克博神学部教授）。現代世界における「良心」を考察し、その応用可能性・実践可能性を探求することを通じて、学際的な研究領域として「良心学」を構築し、さらにその成果を国内外に発信し、新たな学術コミュニティーを形成することを目的としています。良心（conscience）は、新島襄が米国留学中に会った言葉で、それを実践する人々によって助けられ、将来への展望が開かれていきました。

これまで同志社が培ってきた良心教育を土台としつつ、広く学問的検証に堪えられる「良心学」の構築を目指します。世界の困難な現実に対して旧来の「良心」理解を鍛え直し、「良心」のグローバルかつローカルな応用・実践の可能性を探求するために以下の研究テーマを設定しています。

- (1) 同志社教育にとって「良心」とは何か（基礎的・歴史的探求）
- (2) 「良心」は現代社会にどのように適用可能か（応用的・理論的探求）
- (3) 「良心」は日常生活や社会生活の中でどう活かされるべきか（実践的探求）

これらの研究を遂行していくために、宗教学（一神教研究を含む）、国際政治、社会福祉、教育史、エコロジー経済、国際ビジネス、心理学、国際生命倫理、科学倫理などの学際的な視点を駆使し、既存の学問領域を越境する力として良心学を構築していきます。それは本学が目指すべきリベラルアーツ教育に対する学問的・方法論的基盤を提供することにもつながるでしょう。

良心教育の基礎にあるキリスト教主義の意義を現代的文脈の中で再活性化するためには、他の宗教との関係、特に欧米において見られるようにイスラームとの関係は無視できません。寛容や平和の構築に寄与する宗教的・道徳的価値の提示は、価値観の相違によってテロや紛争が引き起こされている現代において急務の課題です。

研究成果を広く社会に還元していくことも目的としています。公開シンポジウムおよび講演会を精力的に開催しており、15年度は4月の開設以来9回、16年度はそれを上回るペースでの開催が予定されています。

さらに、同志社の学生・生徒・児童・園児（外国人留学生を含む）、教職員、

校友そして一般市民が、良心学の目指す知的ネットワークに関わることができるよう、16年度はブックレット「良心を考えるためのブックガイド」を、将来は『良心学入門』のような単行本の刊行を予定しています。

堅調な入試実績と安定的な大学運営

16年度（16年4月）学部入学者の入試実績は、一般選抜入試の志願者が4万962名、センター試験利用入試の志願者については9185名であり、あわせて前年度比101.6%でした。入学者数は入学定員を上回り、堅調な財政状況に貢献しています。今後も安定した大学運営を見込んでいます。

入学定員、入学者数、収容定員、在学生数（2015年5月1日現在）

学部・研究科名	入学定員	入学者数	収容定員	在学生数
学部				
神学部	60	62	240	266
文学部	670	673	2,680	3,039
社会学部	415	469	1,645	1,943
法学部	850	860	3,400	3,735
経済学部	850	867	3,400	3,865
商学部	850	887	3,400	3,690
政策学部	400	390	1,600	1,708
文化情報学部	280	312	1,120	1,285
理工学部	730	923	2,920	3,398
生命医科学部	240	220	960	1,054
スポーツ健康科学部	210	225	780	876
心理学部	150	157	600	679
グローバル・コミュニケーション学部	150	143	600	616
グローバル地域文化学部	180	188	540	579
合計	6,035	6,376	23,885	26,733
研究科				
神学研究科	25	19	55	75
文学研究科	79	45	177	122
社会学研究科	55	38	124	110
法学研究科	145	68	305	162
経済学研究科	55	19	115	38
商学研究科	70	16	145	41
総合政策科学研究科	95	68	235	243
文化情報学研究科	35	18	75	45
理工学研究科	345	400	720	834
生命医科学研究科	124	121	262	244
スポーツ健康科学研究科	11	9	25	21
心理学研究科	14	13	32	40
アメリカ研究科	—	—	—	4
グローバル・スタディーズ研究科	63	50	144	140
脳科学研究科	10	5	40	22
司法研究科	70	70	310	143
ビジネス研究科	115	62	230	149
合計	1,311	1,021	2,994	2,433
総計	7,346	7,397	26,879	29,166

教員数、職員数（2015年5月1日現在）

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
797	1,529	2,326	346	179	525	2,851

※理工学研究科には工学研究科を含む

同志社(法人) 2015年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教育・研究	立石ファンドによる中高の国際化推進プログラムの実施	立石信雄氏(オムロン株式会社元取締役会長)からの寄付金により、特色ある国際主義教育を展開し、国際社会に貢献できる生徒の育成を目的としたプログラムを実施。5年間の成果を発表する成果報告会を開催(2月13日)
	同志社中学生・高校生英語大会ー立石杯ーRecitation & Speech Contest (2月14日)	中学生の部(Recitation Section)D部門12名・I部門2名、高校生の部(Speech Section)D部門8名・I部門6名の計28名が出場、最優秀賞1名、各部門1名に優秀賞、優良賞を授与
	同志社中学生・高校生英語プレゼンテーション大会ー立石杯ー(9月13日)	テーマは、中学生の部「For the future」、高校生の部「Equity, with a focus on Gender, Education, and Socio-Economic」、中学生の部D部門6チーム18名、I部門1チーム3名、高校生の部D部門6チーム18名、I部門2チーム6名の計15チーム45名が出場、各部門1グループに最優秀賞、各部門1グループに優秀賞を授与
	Punahou School: SGLIプログラム	期間:7月20日~7月31日 内容:講義、ディスカッション、フィールドワーク、アクティビティ
	創立140周年記念第33回「東京新島講座」開催(10月10日)	講師・演題:中村信博女子大学学芸学部教授「キリスト教教育のなかの聖書」 講師・演題:横川隆一大学生命医科学部教授「ロボットは高齢化社会の助けとなりえるのか一人の運動制御と介護用ロボット」
	創立140周年記念シンポジウム(第20回同志社国際主義教育講演会と共催)(11月20日)	「リベラルアーツ教育の日米比較」 講演者、パネリスト:サムエル・モース(アーモスト大学教授)、日比谷潤子(国際基督教大学学長)、村田晃嗣(同志社大学学長)
良心教育に関するシンポジウム(1月22日)	同志社教育の原点である良心教育について、現在の同志社にとって、何が必要となり、何をえれば良いのかを検討する。基調講演:石川立キリスト教文化センター所長「大学が求める良心教育」、パネルディスカッション:「中高における良心教育」	
財政	募金事業	ローメ記念館プロジェクト・サポート募金
その他	京都府と連携・協力包括協定締結(12月1日)	幼稚園から大学まで14の学校を擁する総合学園としての強みを生かし、知的・人的・物的資源の交流や地域活性化および地域創生の推進に向けて協力を図るため、①学術・研究交流 ②文化・スポーツの交流 ③国際交流 ④地域振興 ⑤福祉のまちづくり ⑥地球環境問題への対応 ⑦地域産業を担う人材の育成・地元定着、という7つの連携項目を盛り込んでいる
	社友記の贈呈(3月26日)	江崎玲於奈氏(ノーベル物理学賞受賞 物理学者)、徳富次郎氏(株式会社キョクレイ)
	第20回「国際交流に関するエッセイコンテスト」表彰(1月26日)	応募:日本語部門10点(大学生の部4点、高校生の部4点、中学生の部2点)、英語部門44点(大学生の部3点、高校生の部19点、中学生の部22点)、表彰:最優秀賞2名、優秀賞10名、佳作12名
	2015年度「同志社総長賞」表彰(3月26日)	スポーツ活動および文化活動の国際大会、国際コンクールなどで入賞を果たした優秀な学生、生徒、児童または園児に対して顕彰、個人14名と2団体(29名)
	第173回「新島襄生誕記念会」開催(2月12日)	新島研究論文賞:キャビン・ジェームス・キャンベル、新島研究功績賞:大越哲仁、新島襄生誕記念懸賞論文表彰:最優秀賞2名、優秀賞3名、佳作6名
	同志社合同学校説明会の実施	幼稚園から大学まで合同の学校説明会を京都(大学オープンキャンパスと同日8月2日)で開催

同志社大学2015年度の実績

区分	事業	内容補足
教学組織変更・定員改正	「司法研究科法務専攻」収容定員変更	入学定員120名→70名、収容定員360名→210名
	免許資格課程センター	2015年4月1日より、専任8名、任期付5名の体制
教職員採用	理工学研究科の改組	研究領域を拡張し、研究活動の学際化やグローバル化などにも対応すべく「ハリス理化学研究所」へ名称変更
	教員・職員	専任教員24名、任期付教員等62名、専任職員6名
教育・研究	大学院博士課程教育リーディングプログラム【グローバル・リソース・マネジメント(GRM)】	独立行政法人日本学術振興会に事務局を置く博士課程教育リーディングプログラム委員会において中間評価結果A「計画通りの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる」
	私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の採択	ナノ・バイオサイエンス研究センター「細胞自在操作のための分子化学技術の開発拠点形成」
	課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業(実社会対応プログラム)の採択	「共感形成の社会基盤とソーシャル・ビジネスを活用した新産業創造の研究」
	「世界に誇る地域発研究開発・実証拠点(リサーチコンプレックス)推進プログラム」	公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構を中核機関とするリサーチコンプレックス「人の五感と脳情報科学による新たな産業価値創出と超快適スマート社会の実現」がFS(フィージビリティスタディ)拠点として指定、本学が参画
	科学研究費助成事業	交付件数382件、交付金額7億7,864万円
	先端的教育研究拠点の指定	赤ちゃん学研究センター(2016年4月1日)文部科学省「特色ある共同利用・共同研究拠点」認定
	研究センターの開設	先端バイオマテリアル研究センター、良化学研究センター、公共サービス研究センター、ソーシャル・ウェルネス研究センター、実証に基づく心理・社会的トリートメント研究センター、システム神経科学研究センター、フェミニスト・ジェンダー・セクシュアリティ研究センター、南シナ海研究センター、エコ・エスティティクス&サイエンス国際研究センター、先端パワートレイン研究センター
	研究戦略ボードの設置	研究力強化に向けた各種戦略を策定
	若手研究者の育成	本学出身の次世代を若手研究者を社会に紹介することを目的とした「次世代研究者プロファイル」をホームページで公開。研究開発推進機構ガイダンス「アカデミック・キャリアパス」開催
	研究情報の発信	人文社会系・文理融合系研究者紹介集の発行
	寄付教育研究プロジェクトの開設(寄付講座)	「京都市消費者生活総合センター-寄付講座(消費者問題と現代社会)」「連合寄付講座(働くということー現代の労働組合ー)」「同志社会計士会寄付講座(会計と現代社会ー会計の現場からー)」「読売新聞寄付講座(特殊講義 グローバル化のなかの日本)」「社会保険労務士会寄付講座(現代の経営課題と労務監査ー社会保険労務士会ー)」「レイチェル・カーソン日本協会関西フォーラム寄付講座(政策トピックスーレイチェル・カーソンに学ぶ現代環境論ー)」「朝日新聞寄付講座(グローバル・リソース・マネジメント特論(核兵器・原子力と人間社会))」「朝日新聞寄付講座(グローバル・リソース・マネジメント特論(「核なき世界」へのアウトリーチ戦略と実践))」「医療法人社団石鐘会寄付講座(スポーツ・トピックス2 スポーツと健康の関係を探る)」
	他大学・研究機関などとの交流協定、包括協定、学生交換協定の実施(大学間)	セント・メアリーズ大学(アメリカ合衆国)、サン・ジェルマン・アン・レー政治学院(フランス)、ネブラスカ大学カーニー校(アメリカ合衆国)、マレー州立大学(アメリカ合衆国)
	他大学・研究機関などとの交流協定、包括協定、学生交換協定の実施(学部・研究科間など)	「フィリピン大学ディリマン校(フィリピン)」と理工学部との学術交流協定、「中国人民大学国際関係学院(中国)」と法学研究科との単位交換協定、「淡江大学Graduate Institute of Asian Studies(台湾)」と法学研究科とのダブル・ディグリープログラム協定
	連携大学院方式による教育・研究に関する協定書等締結	「愛三工業株式会社技術部門」
	大学の保有する知的財産の事業化に向けた相互連携に関する覚書	野村證券と同志社大学において覚書を締結し、産学連携の推進を図るため、大学の保有する知的財産や研究成果の事業化を支援する事業「野村イノベーションマーケット」に参加
	「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援(Go Global Japan)」<申請区分:タイプA(全学推進型)>	「国内型」「留学型」2つの独自教育プログラムを中心に、創立者である新島襄が目指した「良心教育」を礎として、「高い倫理観」と「幅広い教養」を兼ね備え、自らの責任で思考し、行動できるグローバルな人材の養成を目指す。 7月8日「第3回早稲田大学・同志社大学共同SDワークショップ」 11月14日「西日本第1ブロック共同シンポジウム:地域に根ざしたグローバル人材」 12月20日「Go Global Japan Expo 2015:未来を切り拓くグローバル人材を目指して」 1月15日「世界への扉と言葉の力ーグローバル社会を生きるあなたへー」
	学びへのいざないコンテンツ公開	学内で評判の講義、教育改善のヒントになる授業を撮影・収録し、効果的な編集を加え、学内外に発信。尾形健(法学部教授):人権保障と憲法 表現の自由をめぐる最近の問題から 河島伸子(経済学部教授):Economics of the Creative Industries(創造産業の経済) 川井圭司(政策学部教授):「スポーツの暴力・体罰問題」 “なぜ?”の視点から 今、あらためて考える
国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム	ビジネス研究科「ASEAN・ロシア及びCIS諸国と我が国の経済発展に寄与する京都発グローバル型ビジネスリーダー養成プログラム」、理工学研究科「グローバルものづくりリーダー育成プログラム」	
入試	志願者数	一般選抜入試4万962名、大学入試センター試験を利用する入試9185名
	国際教育インスティテュート入試広報	Global University Counselor Connect, OACAC Conference 2015, CIS
	JASSO日本留学フェア	高雄・台北(台湾)、バンコク(タイ)、ソウル・釜山(韓国)、ジャカルタ(インドネシア)、ハノイ・ホーチミン(ベトナム)、北京(中国)
学生支援	海外指定校推薦入学面接の実施	ソウル(韓国)、上海(中国)
	大学院博士課程教育リーディングプログラム【グローバル・リソース・マネジメント】履修生特別奨励金給付	グローバル・リソース・マネジメントのプレリミナリ試験(PE)、あるいは、ウォリアー試験(QE)に合格し、博士学位取得およびグローバル・リソース・マネジメントの修了を目指す者に奨励金を給付
	博士後期課程若手研究者育成奨励金給付	博士学位取得を目指す入学時34歳未満の学生対象
	脳科学研究科特別奨励金給付	博士学位取得を目指す入学時32歳未満の学生対象
東日本大震災被災学生支援募金	東日本大震災被災学費減免申請者27名に対し給付	

区分	事業	内容補足
学生支援	東日本大震災被災受験生に対する入学検定料及び被災学生に対する学費減免措置の実施	受験生：入学検定料を全額免除 新入学生：入学金全額、春学期・秋学期学費授業料の2分の1を免除 在学学生：春学期・秋学期学費授業料の2分の1を免除
	口永良部島(新岳)噴火、台風18号、台風21号による大雨による被害に伴う学費など減免措置の実施	災害救助法適用地域被災者に該当する受験生、在学学生に対して減免措置を実施
	課外プログラム	「函館キャンプ」「フレッシュャーズキャンプ」「WOT(ワット)」「クローバーシアター」「CLAP」「b(ぶらっと)プログラム」「硬式野球部同立戦応援企画」「JAPONプログラム」「テイラーズ大学(マレーシア)インターンシップ・プログラム」
	新入生歓迎特別講演会	4月20日今出川校地：箭内道彦氏(クリエイティブディレクター)「大学生になる君へ。そして、29年前の僕へ。」 4月23日京田辺校地：ハヤブサ氏(シンガソングレスラー)「夢を見よう!自分を信じて!」
	アッセンブリーアワー	各界で活躍の方々をお招きし、講演会、コンサート、演劇、映画、作品展などを実施 6月30日：変態せよ。ー人生の夏休みの夏休みー 講師：山口和也氏
	ボランティア支援	ボランティアフェア(春・秋)
	留学生課学生スタッフSIED(Student Staff for Intercultural Events at Doshisha)による国際交流イベントの実施	「茶道～Tea Ceremony on the Star Festival Day～」[「このほりをつくろう」][七夕～The Star Festival～][Learning from Music][Lunch Talkーコア語編、中国語編、英語編、日本語編][カードでおしゃべり][Touch AsiaーKOREA編、CHINA編、THAI編][ハロウィンパーティ][京都散策ー鞍馬・貴船編、南禅寺・平安神宮編、新島旧邸][京田辺市役所ツアー][京都和菓子作り体験][Rakugo in Englishー笑いで世界を一つに～][日本の心を知るー座禅～][World Kitchenー中国・かぼちゃ餅、日本・お雑煮～][かきぞめ&ぜんざい][陶芸ー京に生きる・ものづくりの原点にふれる～][お弁当をつくろう][Kawaii Style of the World][Movie Watch][News Watch][日中間の過去、現在、そして未来ー戦後70年を考える～][MixUp Camp][Talk with 村田学長!][What's today?ー祇園祭、塾の日、テレビの日、トルコ独立記念日][世界を遊ぼう][社会人の日本×ローカル学生の日本×留学生の日本=∞JAPAN][SIED Collection][World Tea Museum][Speak Up][国旗で学ぼう][旅行で使える言語講座ー中国語編、ロシア語編][クリスマスパーティ][RICE CAKE MAKINGーおもちゃつき体験しよう～][世界遺産を学ぼうー魅惑の東南アジア編～][大学プレゼンーフラクフルト大学、サラマンカ大学、パリ政治学院]
	留学生課による国際交流イベントの実施	「コロンビア大学との交流会」「歌舞伎ワークショップ」「短期プログラム留学生との交流ーウィネベグ大学、ニューオリンズ大学、メリーランド大学」「茶道体験」「コネル大学&MITとの交流会」
	新入留学生歓迎行事	「京都散策ー伏見稲荷&東福寺、宇治編～」「茶摘体験」「Open Lounge」「SCAVENGER HUNT」「大文字山Hiking」を開催
	就職支援	鳥取県、公益財団法人ふるさと鳥取県定住機構、石川県、静岡県、長野県、高知県と就職支援に関する協定書締結
財政	第2号基本金組入	教育研究施設設備の整備充実に充てる財源を予め計画的に確保するため、教学施設所用見込総額に伴う組入
	募金事業	今出川キャンパス新校舎建設資金募金実績(2010年1月1日～2015年3月31日)：1,806件(個人、団体、企業)5億5,000万円、教育研究施設等整備資金募金、特定寄付奨学金募金、スポーツ活動充実資金募金など
その他	創立140周年記念事業	創立140周年記念事業の紹介のため特設ウェブサイト開設、記念ロゴ作成
	「同志社大学ビジョン2025」	特設ウェブサイト開設、パンフレット作成
	同志社講座	世界や日本でつぎつぎに起こる動きの背景や社会的課題をテーマに展開する社会人向け講座。同志社大学の教員や社会の一線で活躍する卒業生が講師となり、受講生と共に考え、学ぶ楽しさ、より深い「知」の世界を提供。プログラムは春学期(4月開講)、秋学期(10月開講)の半期ごとに東京オフィスにて開催
	学生による同志社大学90秒プレゼン	在学生が高校生に大学の特色や学びの内容、学生生活などについてプレゼンテーション(全24回) http://90sec.doshisha.ac.jp/1dayキャンパス
	同志社フェアin安中～ゆかりの地に集う～	2015年8月30日～31日：地域交流イベント(学長講演、ジョイントコンサート「同志社グリークラブ&新島学園聖歌隊」、交流レセプション、新島義ゆかりの地ツアーを開催
	同志社フェアin熊本～ゆかりの地に集う～	2016年1月29日～30日：地域交流イベント(記念シンポジウム、学長講演)、交流レセプション、熊本バンド「奉教之碑」前早天祈禱会、熊本バンド・同志社ゆかりの地ツアーを開催
	高校生「志」コンテスト in 広島	創立者新島襄の熱い「志」に共感する高校生を対象として、将来の夢や希望の実現に向けた決意や思いなど、これからのキャリアについて自分自身の「志」を募集、2015年7月19日「同志社大学入試説明会2015広島会場」にて授賞式
	「ホームカミングデー」	卒業生に思い出の母校で過ごしていただくとともに、同志社大学の教育・研究の「今」を知っていただくことを目的とし、同志社創立140周年記念リユニオン(2015年11月8日)を同日開催
	同志社京田辺会堂献堂記念講演	佐藤優氏(作家、元外務省主任分析官)：同志社のキリスト教主義は人生にどう役立つか
	Doshisha Spirit Week 2015 (SPRING, AUTUMN)	同志社人としてのアイデンティティを高めることを目的として、「同志社を学び、知る」をテーマに講演や展示などの企画を春秋実施：6月1日～6月6日、11月2日～11月7日
	Doshisha Spirit Tour～熊本キャンプ	熊本と同志社との関わりを見る中で、初期の同志社に強烈な個性を振り撒いた彼らの生き様とキリスト教について学ぶとともに、同志社を見つめ、自らを省みる時間を持つ
	同志社ギャラリー企画展	「はじまりの地ーラットランドから寺町丸太町、今出川へー(4月21日～6月21日)」[縄文貝塚研究と酒詰仲男ー没後50年ー(9月26日～11月8日)]「奥村多喜衛生誕150年、同志社・ハワイ交流80年「ハワイに高知城をたてた男ー同志社・ハワイ交流前史」(12月8日～2月10日)」
	ハリス理化学研究所開設記念シンポジウム	基調講演「日本の創造力を鍛えるー進歩即創造、加藤与五郎先生の教え～」(2015年11月28日)
	リエゾンフェア(12/18)	各企業、自治体などが参加。講演やポスター展示により、本学の研究シーズや研究センター、産官学連携活動を紹介
	「新ビジネス」フォーラム	東京オフィスにおいて、本学の産官学連携をさらに全国規模に広げるとともに、本学の研究資源を基にした新技術・新産業の創出を目指して首都圏の企業とフォーラム2回(9月26日、11月27日)とシンポジウム1回(3月16日)を開催。日を改めて参加企業とのクリエイティブ・セッションも実施
	新司法試験合格者数	33名(全国14位)
	同志社クローバー祭2015	2015年10月31日～11月1日開催、学生・教職員・市民が一体となり、共に楽しみ、ふれあい、交流する場を創出し、大学と地域が連携した新しいコミュニティの形成を目指す(来場者数：1万2000名)
	地域連携企画	寒梅館夏祭り(2015年8月22日)：地域の小学生を対象とした夏祭りを開催 新町祭(2015年12月19日)：地域の方々にもご参加いただいているキャンドルナイトイベント おけいこ(2015年5月下旬～7月初旬)：地域の小学生を対象とした、学生団体による教室(書道、将棋、ギター、とっきゅう、戦略ゲーム、能楽、お絵かきの計7教室)を開催
	地域連携推進室学生スタッフARCOによる地域連携企画	「鶴川ピカピカ大作戦!」「祇園祭ごみゼロ大作戦!」「オリジナル七夕作りで夏を感じよう!」「ハロウィンパーティー」「クリスマスパーティー」[「知ってみよう」]「行ってみよう」[祇園祭に関するVolunteer][「知ってみよう」]「聞いてみよう」]「京のわらべ歌」[「京都の現状(いま)」を知ろう!協力しあえるまちづくり]
	短期プログラム受け入れ	夏期および冬期に、数週間～2カ月の短期留学生プログラムを受け入れ、実施(カールトンカレッジ、ノースイースタン大学、ニューオリンズ大学、ウィネベグ大学、メリーランド大学、ハーバード大学、KCJS、梨花女子大学、同志社大学サマーセッション、同志社大学スプリングセッション、Stay In Kyoto Program)

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源	
今出川校地	耐震改修	新町別館耐震改修	2015年度	5億7,400万円	学生生徒等納付金、寄付金
		尋真館耐震改修	2015年度～2016年度	9億6,200万円	〃
	その他整備	継志館ブルー天井改修工事 継志館 中央監視盤更新	2015年度	8,600万円 1,400万円	〃 〃
京田辺校地	体育施設整備	サッカー場、アメリカンフットボール場 人工芝改修工事	2015年度	2億4,000万円	〃
		体育施設倉庫立替工事	2015年度	4,500万円	〃
		熱中症対策施設設置工事	2015年度	2,200万円	〃
	事務室移転	研究開発推進機構再編に係る事務室の配置変更工事	2015年度	1億5,600万円	〃
	その他整備	知真館1、2号館トイレ改修工事 IC化に伴う入退管理整備事業工事	2015年度	9,000万円 5,000万円	〃 〃
	有徳館西館空調機器更新工事 創老館空調機器更新工事	2015年度	2,200万円 2,500万円	〃 〃	
	恵道館昇降機更新工事 紫苑館昇降機更新工事	2015年度	1,600万円 1,600万円	〃 〃	
	情報メディア館非常用発電機設置工事	2015年度	1,800万円	〃	

同志社女子大学

理想の女子教育を目指して改革を推進 学部を新設、授業支援システムを導入



DATA	■ 創立	1876年
	■ 所在地	〒610-0395 京都府京田辺市興戸南鉢立97-1 TEL：0774-65-8411 〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入玄武町602-1 TEL：075-251-4111
	■ URL	http://www.dwc.doshisha.ac.jp/

同志社女子大学は2015年、看護学部看護学科を開設し、6学部11学科、1専攻科、4研究科7専攻となりました。現在、京田辺と今出川の2つのキャンパスで約6500名の学生が学んでいます。今年で創立140周年。今後も、新島襄が目指した理想の女子教育を受け継ぎ、より高い水準の教育・研究を実践するための改革を進めてまいります。

京田辺キャンパスに 看護学部看護学科を開設

15年4月、京田辺キャンパスに開設した看護学部看護学科は新入生82名を迎えスタートしました。1年次では看護学の基礎となる「専門基礎科目」や「看護基盤科目」の履修が始まっています。看護学部で特に力を入れている1年次から4年次まで一貫して実施する「看護実践総合演習」におけるシミュレーション学習や看護OSCEのプログラムも看護実践能力育成に効果を上げています。また、新たに建設された蒼苑館には、各専門領域の実習室を

はじめ充実した学修環境を整備しています。なかでもプラクティカル・サポート・センターはインストラクターを配置し、学生の学修ニーズにあわせてきめ細かな対応を行っています。

授業支援システム(愛称「マナビー」)を 全学的に導入

15年度秋学期から、インターネット

を利用して授業を担当する教員と学生が情報のやりとりができる授業支援システムを全学的に導入しました。

このシステムは、教員から学生への連絡事項の一斉発信、小テストの実施、レポートの受け付け、掲示板を使ってのディスカッションやグループワークなどが可能です。小テスト、レポートに関しては、成績を学生に通知するだけでなく、教員からのコメントやアドバイスをフィードバックすることができます。教員からのコメントに対して学生がコメントを返すことも可能で、システム上で双方向のコミュニケーションを図ることができます。

提出したレポート、小テスト、それらの成績などは、個々の学生のポートフォリオに科目ごとに時間順で蓄積されます。教員と学生はそれらを閲覧することができるため、随時継続した指導を実現することができます。

「マナビー」の利用方法を教員が工夫し合い、学生がよりアクティブに学習できるためのツールとして利用されることを期待しています。

アジアの大学との 新たな交流の展開

これまでの本学協定校は、本学の学科構成等を反映して、英語圏の国の大学を中心に展開してきました。

しかし昨今、アジアの大学でも英語で開講する授業数が急速に拡大してい

入学定員、入学者数、収容定員、在学生数(2015年5月1日現在)

学部・研究科名	入学定員	入学者数	収容定員	在学生数
学部				
学芸学部	315	348	1,280	1,439
現代社会学部	400	441	1,620	1,847
薬学部	120	116	720	818
看護学部	80	82	80	82
表象文化学部	265	305	1,155	1,325
生活科学部	215	249	860	996
合計	1,395	1,541	5,715	6,507
研究科				
文学研究科	31	6	70	29
国際社会システム研究科	10	2	20	5
薬学研究科	4	3	16	6
生活科学研究科	13	2	26	9
合計	58	13	132	49
専攻科				
音楽専攻科	20	16	20	16
合計	20	16	20	16
総計	1,473	1,570	5,867	6,572

教員数、職員数(2015年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数	
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計	
200	553	753	77	78	155	908	

るため、言語の障壁が低くなり、新たな学生交流の可能性が拡大しています。

本学においても、アジアから半年・1年間の留学生受け入れに向けて、授業料の設定、寮の確保、寮費・食費の補助、留学生向け日本語授業の開講などを進めるとともに、台湾の東呉大学、静宜大学、タイのタマサート大学との交流協定を締結しました。これらの大学とは、翌年度に学生交流がスタートします。

引き続き、アジアの大学との協力関係を拡大し、学生の短期・長期の交流をはじめとした様々な展開を進めていく方針です。

キャリア設計を支援 好調が続く就職状況

15年度の就職状況は、就職希望者1303名(就職希望率87.1%)に対し、就職決定者は1282名となり、就職決定率は98.4%となりました。昨年度に比べ、就職決定者だけでなく就職希望者も増えました。

国家試験の状況は、薬学部医療薬学科の16年3月卒業生および過年度卒業生の172名が第101回薬剤師国家試験を受験、136名が合格(合格率79.1%)し、私立大学平均76.3%を上回りました。現在、本学科全卒業生764名のうち、94.8%にあたる724名が薬剤師免許を取得し、様々なフィールドで活躍しています。

生活科学部食物栄養科学科管理栄養士専攻では、16年3月卒業生96名全員が第30回管理栄養士国家試験(16年3月実施)を受験し、94名が合格、合格率は97.9%となりました。例年に引き続き、高い合格率を維持しています。

現代社会学部現代こども学科では、44名が2016年度公立小学校教員採用試験を受験し、30名(実人数)が二次試験に合格しました。本学では教職を第一希望とする学生のサポートを目的として教職課程センターを設置し、教員採用試験の合格に向けた学習方法やアドバイスをを行うなど、きめ細かな支援体制を整えています。

安定した入試実績 教育・研究環境のさらなる充実

16年度(16年4月入学)の出願状況は、一般入試志願者数(センター利用入試を含む)9857名(前年度比4.7%減)、その他の入試の志願者数4120名(前年度比5.3%減)でした。

13年から5年計画で進めている今出川キャンパス整備事業も順調に進んでおり、15年8月には新心館が竣工しました。新楽真館(仮称)は今年4月から建替工事を開始し、17年度に竣工する予定です。より充実した教育・研究環境が整いつつあります。

同志社女子大学2015年度の事業実績		
区分	事業	内容補足
教学組織変更・定員改正	看護学部看護学科開設	入学定員80名、収容定員320名
	定員変更	入学定員変更()は変更前。表象文化学部英語英文学科145名(160名)、日本語日本文学科120名(130名) 収容定員変更 学芸学部音楽学科480名、現代社会学部社会システム学科1,220名、看護学部看護学科80名、表象文化学部英語英文学科635名、日本語日本文学科 520名
教職員採用	専任教員19名、特別任用教授(2号)8名、任期付教員6名、特別契約教員(コントラクト)3名、特別任用助手2名、特別任用助教2名、実習助教3名、実習助手4名、専任職員1名、常勤嘱託職員1名	
教育・研究	医療薬学科カリキュラム改正	2015年度入学生より適用
	女性アクティベーションセンターの設置	本学の女子教育が卒業後のキャリア形成に及ぼす効果を調査・研究するとともに、学生が在学中に教育や諸活動によってエンパワーされ、卒業後、リーダーシップを発揮して社会で活躍することを促進するための機関として、教育・研究推進センター内に2015年4月開設
	新図書館システム導入	女子大学として新たに図書館システムを導入
	情報環境の整備充実	一般教室、情報処理教室リプレイス
	授業支援システム「マナビー」導入	授業効果を一層高め、学生の事前・事後学習を支援することを目的に、Webを利用した教育・学習支援システムを全学に導入
	スチューデント・アシスタント制度導入	学部生・専攻科生を対象
	京都聖母学院高等学校「同志社女子大学クラス」生徒受け入れ	「同志社女子大学クラス」1期生33名入学
入試制度	看護学部看護学科開設に伴う入学試験の実施	2014年度に教職課程認定申請(2015年2月4日認定)
	看護学部看護学科設置に伴う入学試験(2年目)を実施	先行実施科目である「数学」および「理科」を除く科目について、新学習指導要領実施に伴う試験教科・科目名および出題範囲の設定
学生生徒支援	ボランティア活動支援センターの設置	「大学入試センター試験を利用する入学試験」「教育連携特別推薦入学試験」「推薦入学試験C」を新たに導入
	会津若松・安中・函館ツアー	建学の精神・教育理念を深く理解し、ボランティア活動を通じてその理念を他者のために実践できる学生を育成し、支援することを目的として2015年4月に宗教部内に開設。医療法人2、社会福祉法人1での活動および関連情報の収集と発信を中心としてスタート
	100円朝食	本学への帰属意識を高める目的で、本学や創立者夫妻のゆかりの地を訪ねる研修ツアー(9月2日～5日)を実施
	募金事業	学生の食生活をサポートするため、保護者会や学生会、同窓会等の補助を一部とし100円で朝食を提供
財政	第2号基本金組入	キャンパス施設設備整備充実資金10億円
	第3号基本金組入	教育研究充実基金4,000万円
その他	「同志社女子大学の集い2015」開催	キャンパス総合整備資金募金、教育研究条件整備資金募金
	「ホームカミングデー 2015」開催	東京(6月13日)、名古屋(6月14日)、金沢(7月11日)、高松(9月12日)、福岡(9月13日)
	今出川キャンパス(11月1日)	今出川キャンパス(11月1日)
	学術交流等各種連携協定に基づく事業の実施	金城学院大学、奈良県立医科大学、株式会社ANA総合研究所、独立行政法人国立病院機構京都病院、社会福祉法人盛和福祉会京都大和の家、医療法人社団石鐘会、宗教法人日本南プレスビテリアンミッション淀川キリスト教病院 特に宗教法人日本南プレスビテリアンミッション淀川キリスト教病院と「医療」というテーマについて、それぞれの得意分野から様々な切り口で連携事業に取り組むプロジェクト(Care Project)に取り組んでいる
	教育連携協定校との各種事業展開	京都聖母学院高校、京都学園高校、平城高校など全18校(2015年度に新規3校と教育連携協定を締結)

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
今出川キャンパス	今出川キャンパス整備事業(耐震対応倉庫) 新心館・動物飼育室建設、デントン館・顕美館改修他	2011年度～2017年度	総事業費75億円のうち、15億8,744万2,000円	第2号基本金
	みざわ寮の高架水槽、エアコン更新	2015年度	1,107万円	学生生徒等納付金、寄付金
京田辺キャンパス	知徳館の教室机・椅子更新、3・7・8号棟廊下・階段部床張替	2015年度	2,400万3,000円	学生生徒等納付金、寄付金
	新島記念講堂スタンドグラス設置	2015年度	3,200万円	学生生徒等納付金、寄付金
	恵真館トイレ改修	2015年度	1,998万円	学生生徒等納付金、寄付金
	エネルギー棟地下機械室受水槽更新	2015年度	1,641万6,000円	学生生徒等納付金、寄付金

同志社中学校・高等学校



志ある同志社人が
育つ環境と
教育内容を創造！



同志社中学校・高等学校
木村良己 校長

IWAKURAキャンパスを包む色鮮やかな一本一本の木が「木材」ではないように、同志社人は一人ひとりが「良心の全身に充満したる」人間であり、「人材」ではありません。「良心を手腕に運用する」人間が育つ教育空間を創出するという揺るぎない基本的方向性のもと、豊かな時間、空間、仲間に含まれた教育環境で、中高6年間の発達段階に対応した一貫教育、学問的探究、良心教育の充実をさらに深めていきます。

DATA	■ 創立	1875年
	■ 所在地	〒606-8558 京都市左京区岩倉大鷲町89 TEL：075-781-7121
	■ URL	http://www.js.doshisha.ac.jp/

「同志社良心教育」の推進

「キリスト教主義教育」については、「礼拝から始まる学校生活」の充実を通して、生きる指針の追求、共に聴く時間、素敵な生き方との出会いの場を創出しました。

「自由主義教育」については、生徒が本物に触れる機会を提供するプログラムを実施しました。中学では大学の研究室訪問など70を超える「同中学びプロジェクト」を企画、高校では「土曜特別補講」のほか、各界で活躍される方々の志に出合う特別企画「パワーアップ・セミナー」「ようこそ先輩IWAKURA版」などを実施しました。

「国際主義教育」については、中学ではターム留学を含む海外研修プログラム、AIU国内留学、イングリッシュキャンプなど、各種プログラムを実施しました。高校では、ウェズリーカレッジとの相互交換留学、ハワイ・プナホウスクールへの派遣に加え、校内で5日間、海外の大学生と英語でディスカッションやプロジェクトワークなどを行う「エンパワメントプログラム」を初めて実施しました。

2016年度入学者の入試実績は、中学の一般入試の志願者は482名、入学者は学内進学生徒と合わせて293名。高校は一般入試と推薦入試の合計で305名の志願者があり、入学者は学内進学生徒と合わせて365名でした。

同志社中学校・高等学校2015年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教職員採用	高等学校 国語科専任教員 1名	前々年度退職者補充
	高等学校 英語科専任教員 1名	前年度退職者補充
教育・研究	高等学校 土曜特別補講	2年生対象(国語・数学・英語)
	高等学校 短期交換留学	オーストラリア・ウェズリーカレッジへ16名派遣および16名受け入れ
	高等学校 短期留学	ハワイ・プナホウスクールへ1名派遣
	高等学校 パワーアップセミナー	3年生対象「特別企画」(将来展望・進路開拓)
	中学校 研究誌発行	彰栄38号別冊「教育・研究実践」
	中学校 国際交流プログラム	ヌエバスクール受け入れ(7名)、派遣(6名) ニュージーランドホームステイ語学研修(21名)
学生生徒支援	奨学金の実施	給付：四方秀和奨学金(2名)、同志社高等学校特別奨学金(2名)、同志社校友会奨学金(1名)、同志社中学校新島会奨学金(4名)、同志社中学校司鐘奨学金(1名) 貸与：同志社高等学校学貸与金(1名)、あんしん修学支援奨学金(106名)、同志社中学校桑の実奨学貸付金(1名)
	四方秀和奨学生に対する奨学金加算給付措置	京都府の私立高等学校あんしん修学支援事業導入に伴い、四方奨学生に対し特別奨学金から教育充実費相当額を加算給付
財政	第2号基本金組入計画	教学施設整備資金(南体育館・付属棟建設事業) 2013年度～2015年度まで毎年度2億円 2016年度～2017年度まで毎年度3億円を組入予定 組入総額12億円

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
パイプオルガン設置		2014～2017年度	約1億円	特定支出準備金
北東校地整備	しらすぎ会館改修工事	2014～2015年度	約4,890万円	学生生徒納付金、寄付金
北東校地整備	しらすぎ会館付属倉庫新築工事	2014～2015年度	約1,320万円	学生生徒納付金、寄付金
北東校地整備	しらすぎ会館周辺整備工事	2015年度	約619万円	学生生徒納付金、寄付金、特定支出準備金
校地整備	南校地外灯増設工事	2015年度	約490万円	学生生徒納付金、寄付金
校地整備	ケヤキ広場整備工事	2015年度	約830万円	学生生徒納付金、寄付金
校地整備	岩倉川沿い広場・交流グラウンド整備工事	2015年度	約680万円	学生生徒納付金、寄付金
パソコンリプレース	教員用PCリプレース	2015年度	約1,440万円	特定支出準備金

入学定員、入学者数、収容定員、生徒数(2015年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
中学校	288	294	864	880
高等学校	360	355	1,080	1,094
合計	648	649	1,944	1,974

教員数、職員数(2015年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
86	64	150	11	15	26	176

同志社香里中学校・高等学校



一人ひとりと
しっかりと向き合おう
教育を展開



同志社香里中学校・高等学校
ふくだ こうじ
福田耕治 校長

新島襄の「一人一人大切ナリ」という言葉を常に考えようと教職員に呼びかけています。一人ひとりの生徒にしっかりと、丁寧に向き合い、多感な時期の生徒が、道に迷ったときにも適切なサポートができるような学校でありたいと考えています。私自身も教職員や生徒によく話しかけています。教員と生徒の距離が近いのが本校の特徴。学校生活に対する生徒の満足度が非常に高いことは私たちの大きな喜びです。

DATA	■ 創立	1951年
	■ 所在地	〒572-8585 大阪府寝屋川市三井南町15-1 TEL : 072-831-0285
	■ URL	http://www.kori.doshisha.ac.jp/

教育内容のさらなる充実

国際交流プログラムの内容を再点検し、一部プログラムを変更するなど、より充実を図りました。施設設備改修として、第2グラウンドに接している近隣住民への安全確保のため、防球ネットを約6メートルかさ上げし、14.9メートルにしました。建築基準法で定められているタイル外壁の定期調査を讃光館で実施し、各校舎ごとに順次実施予定です。また衛生面では、香真館のトイレを和式から洋式に改修し、ウォシュレット設置を行いました。トイレ改修も今後、各校舎に順次実施する予定です。

中学生徒会では「ラオスに学校を建てようプロジェクト」が長期継続中で、2014年のポントン村に続く2校目の建設に向け、生徒自ら募金やグッズ製作・販売などの活動をしました。

課外活動では、中学ダンス部が全国大会で優勝。高校レスリング部が個人で全国大会2位となり、アジア・カデット選手権に出場、7位と健闘しました。スキー部も全国大会に出場しています。吹奏楽部は、関西吹奏楽コンクール小編成の部で、中学が銀賞、高校が金賞を受賞しています。

14年に入試委員会を入試部に昇格させ、募集の重要性への認識を学校全体で共有しています。15年はオープンキャンパスなどの機会を増やしたところ、志願者が微増しました。

同志社香里中学校・高等学校2015年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教職員採用	専任教員 1名 採用	国語科1名
	専任職員 1名 採用	事務室職員1名
教育・研究	海外交流プログラム	年間留学生派遣 ドイツ(1年間、高校生1名) アメリカ・ボストン フィリップスアカデミーサマーセッション(40日間、高校生1名)、カナダ・バンクーバー 語学研修プログラム(17日間、高校生25名、中学生14名)、アメリカ・ハワイ プナホウスクールSGLI(14日間、高校生1名)、オーストラリア・ピンブルレイディースカレッジ短期留学プログラム(31日間、高校生1名)、日韓交流プログラム(約1ヶ月、高校生1名)、イギリス・グレンシャム校交流プログラム(11日間、高校生5名、中学生3名)、アメリカ・サンフランシスコ ヌエバスクール交流プログラム(10日間、中学生6名)、アメリカ・サンフランシスコ ヌエバスクール交流プログラム(12日間、高校生3名)
	国際交流イベント "The Small Planet 2015"	12月12日実施。異文化理解と交流、高校生全員と中学生希望者参加
	アドバンス講座	主に土曜・木曜に、国公立などを対象とする生徒を対象に、外部講師を招き、英数国3科目の講義を実施。全25回
	キャリア教育	年間を通じて、中学3年生のリベルタスの時間に、様々な分野で活躍する社会人講師を招き、実践的キャリア教育を実施
	人権アセンブリー	12月7日実施。シンガーソングライターによる人権教育。中学3年生と高校生全員参加
	福祉体験授業	11月16日17日に、中学1年生を対象に、寝屋川市福祉協議会・ボランティア団体による車椅子体験学習を実施
入試	中学前期・後期日程実施	志願者数 中学前期日程401名、後期日程787名。高等学校72名
	学生生徒支援	同志社香里高等学校就学支援奨学金 大阪府の就学支援推進校指定に伴う授業料負担分
財政	学内奨学金(給付制)	同志社香里奨学金・PTA奨学金・校友会奨学金
	第2号基本金組入	教学施設整備資金として2015～2024年度まで毎年1億円を組入予定 組入総額10億円
その他	募金事業	教育施設等整備資金募金
	オープンキャンパス・体験授業	オープンキャンパス5月、6月、9月実施。体験授業5月、6月実施
	クリスマスセレブレーション	12月12日実施。地域住民との交流イベント
	わくわくサイエンスデー	7月20日実施。寝屋川市内の小中学生向け理科体験授業

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
施設改修	香真館トイレ改修工事	8月	1,024万円	学生生徒納付金
設備改修	清心館エレベーター戸開走行保護装置取付	6月	270万円	学生生徒納付金
校地整備	第2グラウンド防球ネット嵩上工事	8月	1,794万円	学生生徒納付金

入学定員、入学者数、収容定員、生徒数(2015年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
中学校	240	258	720	748
高等学校	315	308	945	915
合計	555	566	1,665	1,663

教員数、職員数(2015年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
64	47	111	8	1	9	120

同志社女子中学校・高等学校



DATA	■創立	1876年
	■所在地	〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入玄武町602-1 TEL : 075-251-4305
	■URL	http://www.girls.doshisha.ac.jp/

他者の幸せにつながる
「奉仕の精神」を育む
女子教育を实践



同志社女子中学校・高等学校
つじむら よしみ
辻村 好 校長

開学以来、キリスト教の女学校としての歴史を持つ本校は、今も教育の根幹に「奉仕の精神」が強く息づいています。この奉仕の精神とは、福祉活動などに限ったものでなく、自分が身につけた力を生かして、他者の幸せにつながる何かができるということです。そこに自身の使命感や幸せを得られる女性（ひと）を育ててきたのが本校であり、これからもそうした教育を实践していきたいと思っています。

国内での英語教育の充実を目指す

米国の名門女子大学スミスカレッジでのサマープログラムをはじめ、各国での語学研修、語学プレゼンテーション大会への参加者から自身の貴重な経験を広く伝えたいという声が上がりました。そこでロングホームルームなどで、海外での体験談を語り、大会で行ったプレゼンテーションをしてもらいました。

また、より多くの生徒が参加できる国内での国際交流プログラムを開拓しようと、研修候補地の視察などを始め、2017年度の実施を目指しています。

「花の日・人権福祉の日」の中学校の講演会では、JR福知山線脱線事故で障がいを負った卒業生に「それでも前へ進む」というテーマで講演をしてもらいました。「事故や病気など身にふりかかる出来事は選べなくても、どう生きるかは自分で選べる」という力強い言葉が生徒たちの心に残ったようです。

4月には小学生対象の同志社女子中学校体験イベント「WAKUWAKU同女たんけん」を実施し、クラブ活動の見学や、生徒と交流してもらいました。また15年度、スクールサポーターを配置し、一人ひとりの生徒にさらにきめ細かく対応できる体制を整えました。16年度の入試実績は、中学は志願者総数858名、合格者454名で、高校は定員約20名に対し合格者は24名でした。

同志社女子中学校・高等学校2015年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教職員採用	専任教員4名、専任職員1名	国語科1名、英語科1名、理科2名、事務職員1名
教育・研究	国際交流プログラム	イギリス語学研修(高校) モーバンカレッジへ28名(16日間)、オーストラリア語学研修(中学) シドニーセントレオズカレッジへ29名(13日間)、アメリカ・ヌエバ校との交流(中学) 派遣6名(9日間)・受け入れ5名(8日間)、ハワイ プナホウスクールSGLIプログラム(高校) 派遣1名(15日間)、アメリカ・スミスカレッジサマープログラム(高校) 派遣5名(10日間)
	TOEIC受験	高校1年生 Bridge、2年生 Bridge、IP、3年生IP
	新入生交流プログラム	中学1年生修養会(2泊3日 ユニピア篠山)
	宗教交流プログラム	中学2年生・3年生修養会、高校修養会(希望者1泊2日 同志社びわこトリートセンター)
	平和教育	長崎修学旅行(中学2年生2泊3日)、沖縄修学旅行(高校2年生3泊4日)
	福祉教育	人権福祉講演会(中学)、花の日福祉施設訪問、高齢者福祉講演会・施設訪問、車椅子バスケット体験・交流授業(高校) 収穫感謝の日福祉施設訪問、国立療養所多磨全生園(元ハンセン病患者療養所)訪問(高校希望者 1泊2日)
	芸術鑑賞	劇団四季ライオンキング鑑賞(全校生)、狂言鑑賞(中学1年生)
	チューター制度	本校卒業生の指導による中学生の英語・数学の学力向上
入試制度	中学前・後期日程実施	後期日程導入5年目(志願者 前期:338名 後期:520名)
学生生徒支援	奨学金制度	同志社女子中学校・高等学校奨学金(給付4名、貸与2名)
	修学支援事業	あんしん修学支援奨学金事業(給付75名)
	クラブ活動費補助	全国大会など学校が認めた行事への活動費補助を強化
財政	第2号基本金組入・取崩	7億2,000万円を取り崩し(新校舎建設)
	特定支出準備金繰入	教育機器整備費1,000万円を繰り入れ、生活活動支援備品646万円、屋外ボール時計50万円を繰り入れ
その他	WAKUWAKU同女たんけん、オープンキャンパス体験授業	小学5、6年生、父母など参加

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
教育環境整備	静和館トイレ洋式化	2015年度	3,780万円	学生生徒等納付金
校地整備	新校舎建設工事	2012～2016年度	13億7,823万円(2015年度分)	学生生徒等納付金、教育研究施設・設備整備資金寄付金、第2号基本金、法人内資金調達借入
教育環境整備	AVシステム導入		4,795万円	
教育環境整備	中高教室机、椅子、教卓	2015年度	4,819万円	学生生徒等納付金、特別寄付金
校地整備	埋蔵文化財調査	2015年度	1,010万円	学生生徒等納付金

入学定員、入学者数、収容定員、生徒数(2015年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
中学校	240	248	720	743
高等学校	270	269	810	811
合計	510	517	1,530	1,554

教員数、職員数(2015年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
66	39	105	8	4	12	117

同志社国際中学校・高等学校



生徒一人ひとりが持つ可能性を最大限に伸ばす
仕組みづくりの充実に



同志社国際中学校・高等学校
かわい くにたか
川井国孝 校長

2015年度は、スーパーグローバルハイスクール (SGH) に正式に採択されました。これを一つのステップにして、本校のことだけにとどまらず、広く社会的な問題・課題にも目を向け、それについてしっかり考えられる生徒を育てなければなりません。生徒たちが持っている可能性を最大限に伸ばし、国際社会で貢献できるよう、自ら課題を設定し、それを解決する力を重視した学習形態をより充実させていきます。

DATA ■ 創立 1980年
■ 所在地 〒610-0321 京都府京田辺市多々羅都谷60-1
TEL : 0774-65-8911
■ URL <http://www.intnl.doshisha.ac.jp/>

中学の定員を増員

2015年4月に、同志社国際学院初等部の卒業生を初めて受け入れ、中学1年生から1クラス分の増員・増クラスを図りました。また、オックスフォードの「オンライン・プレースメントテスト」という客観的な英語力評価テストで、生徒たちの英語の習熟度に応じたクラス分けを従来の3段階から6段階に細分化しました。SGH採択校として、これから真の国際人養成を目指した教育に拍車をかけていくつもりです。

高校生が国際会議をお手伝い

14年に行われたOECD（経済協力開発機構）の「東北スクール」に参加して以来、本校はOECDとつながりを持たせていただいています。15年12月に東京で開催された国際会議「OECD/Japanセミナー」では、OECDの要請に応じて、高校生10名がアシスタントとして参加しました。裏方とはいえ、世界の政策に影響を与える国際会議に関わることができたことは、生徒たちにとってかけがえのない経験になったようです。

世界レベルの課題解決型プログラム「グローバル・エンタープライズ・チャレンジ」には今年度も参加し、国内2位で国際大会の出場権を得ました。

16年度入試実績は、中学校は志願者が349名（海外帰国生徒94名、国内

一般生徒255名）で、合格者は117名（海外帰国生徒54名、国内一般生徒63名）。高校は志願者が351名（海外帰国

生徒259名、国内一般生徒92名）で、合格者は226名（海外帰国生徒162名、国内一般生徒64名）でした。

同志社国際中学校・高等学校2015年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教職員採用	英語科専任教員 3名	前年度退職者補充2名 増員1名
	国語科専任教員 1名	前年度退職者補充
	社会科専任教員 1名	増員
	専任職員 1名	退職者補充
教育・研究	スーパーグローバルハイスクール採択校としての取り組み	外部講師による講演・岡山県真庭市フィールドワーク・東京大使館訪問・活動報告会の開催・ヨーロッパ下見
	国際交流プログラムの実施（海外短期研修）	ザ・ヌエーバ・スクール交換プログラム（中学生6名）、ヌエーバ・アッパー・スクール交換プログラム（高校生3名）、ヌエーバ・スクール・サマー・キャンプ（中学生6名）、Phillips Academy Summer Session（高校生6名）、サマープログラム・イン・アーモスト・カレッジ（高校生10名）、ハーバード大学サマースクール（高校生1名）、Izolda交換プログラム（高校生7名）、サマープログラム・スミス・カレッジ（高校生10名）
	国際交流プログラムの実施（留学生受け入れ）	ザ・ヌエーバ・スクール交換プログラム（中学生6名）、ヌエーバ・アッパー・スクール交換プログラム（高校生6名）、アパラマ州高校選抜生徒（高校生20名）、Izolda交換プログラム（高校生10名）、メンロスクール交換プログラム（高校生4名）、Ecole Jeannine Manuel交換プログラム（高校生12名）
	校内英語試験の実施	生徒全員が実用英語検定またはTOEFLを受験
	平和教育	中学2年長崎研修旅行、高校3年沖縄研修旅行
学生生徒支援	新入生交流プログラム	中学1年、高校1年宿泊研修を実施
	体験学習プログラム	中学1年（ハチ高原）、中学3年（徳島南阿波）
	奨学事業の実施	校友会奨学金（給付1名）、新島奨学金（給付2名）、海外長期留学期奨学金（給付2名）
	修学支援事業の実施	あんしん修学支援奨学金（給付53名）

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
教学施設整備	望雲館・朋知館屋根・寮渡り廊下塗装工事	2015年8月	950万円	学生生徒等納付金

入学定員、入学者数、収容定員、生徒数（2015年5月1日現在）

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
中学校	130	100	340	319
高等学校	270	273	810	835
合計	400	373	1,150	1,154

教員数、職員数（2015年5月1日現在）

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
54	79	133	7	4	11	144

※国際中学校の定員について
2015年度から収容定員を1学年40名ずつ増員、2015年度340名、2016年度380名、2017年度以降420名。

同志社小学校



DATA	■ 創立	2006年
	■ 所在地	〒606-0001 京都市左京区岩倉大鷲町89-1 TEL : 075-706-7786
	■ URL	http://www.doshisha-ele.ed.jp/

自ら調べ、まとめ、
情報発信していく
「道草教育」を着実に実践



同志社小学校
うちやまい ちろう
内山伊知郎 校長

幼稚園から大学、大学院までの同志社一貫教育において、初等教育は6年間という長い期間を担っています。私たち同志社小学校の教職員は、児童の人格や勉学に対する基本的な方向性を修得させる重要な使命を帯びています。そのため小学校期を通して、開校当初から掲げている「道草教育」を着実に実践し、知的好奇心にあふれ、自主的に学ぼうとする姿勢や社会性を身に付けた子どもの育成に尽力しています。

校歌の作詞者を招き記念式典を開催

開校10年を迎えた2015年度は秋に記念式典を開催し、高名な詩人・脚本家であり、本校の校歌を作詞していただいた谷川俊太郎氏を招いて、児童たちと語り合う機会を持ちました。この式典は小学校での良心教育について考える良い機会となりました。

今年度中には、同志社小学校の10年の歩みをまとめた記念誌を発刊する予定です。また、第30回京都市小学校大文字駅伝大会の予選を通過し、16年2月に本大会に初めて出場しました。ハード面では、校庭のまわりに防球ネットを設置しました。ボールが学外に飛び出すことによる事故が各地で発生しているなか、ネットを張りめぐらすことによってできる球技の幅が広がり、子どもたちも従来以上に安心してスポーツに取り組めるようになりました。

「立石杯」に初参加

教育面では、児童一人ひとりが自ら調べ、まとめ、情報発信する姿勢や能力を身に付けていく「道草教育」(同志社型アクティブ・ラーニング)を例年通り実施しました。本校では児童が将来グローバル社会で活躍できるよう、1年生から週3時間英語の授業を行っており、同志社の英語弁論大会「立石杯」に初参加しました。

6年生の修学旅行では、新島襄が学

んだアメリカ合衆国のアーモスト大学をはじめ、アーモストの小学校や高齢者施設を訪問して現地の小学生や高齢者とも交流しました。英語で自己表現する機会を持ったことは、子どもたちの自信につながったようです。

国際交流は、同志社大学の留学生を

招き英語の授業を中心に交流を深めたほか、オーストラリアのセントジョセフ小学校の児童をホームステイで受け入れたり、フランス人学校の児童との交流も初めて実施しました。施設・設備面では児童用iPadを増設し、授業などで積極的に活用しています。

同志社小学校2015年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教育・研究	宿泊体験学習	1年生: 学校(1泊2日)、2年生: アクトバル宇治(1泊2日)、3年生: ハチ高原(2泊3日)、4年生: 一里野高原スキー(3泊4日)、5年生: 北海道(4泊5日)、6年生: 修学旅行が宿泊体験学習を兼ねる
	修学旅行	6年生: アメリカ合衆国(アーモスト、ボストン)8泊10日
	水泳教室	継志館プールを使用して開催(7月21日~24日)
	同志社タイム	各界で活躍する同志社卒業生・在校生などを招き、本物に触れ感性を磨く体験学習を実施。2015年度は、開校10年記念式典で、本校校歌の作詞者である谷川俊太郎氏に来ていただいた。
	国際交流・国際理解教育	同志社大学の留学生を毎学期、全クラスに招き、英語の授業を中心に児童と交流を深める活動を実施した。オーストラリア・ヴィクトリア州セントジョセフ小学校から児童および校長他教員が来学、学校授業参加とホームステイ体験を行った。リセフランセド京都との交流を2回にわたって行った。
	Young Americans (ワークショップ)	音楽講演と教育活動を行なう非営利団体 (Young Americans) が行なう Music Outreach というワークショップを通して、国際主義を標榜する同志社において、早い時期から本物に触れることにより、豊かな感性を育んだ。(4年生から6年生を対象)
学生生徒支援	奨学事業	同志社小学校奨学金(給付2名)
財政	同志社小学校教育支援および施設・設備整備資金募金	一口20万円

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
空気清浄機設置	各クラス及び特別教室に空気清浄機を設置	2015年度	337万	寄付金、学生生徒等納付金
情報環境整備維持	児童用iPad増設、ノートパソコン更新、アクセスポイント更新等	2015年度	3,332万	学生生徒等納付金、寄付金、補助金
防球ネット設置	グラウンド周りに防球ネットを設置	2015年度	1,690万	学生生徒等納付金、寄付金

入学定員、入学者数、収容定員、児童数(2015年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
小学校	90	90	540	538

教員数、職員数(2015年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
28	20	48	2	1	3	51

同志社国際学院



DATA ■ 創立 2011年
 ■ 所在地 〒619-0225 京都府木津川市木津川台7-31-1
 TEL : 0774-71-0810
 ■ URL <http://www.dia.doshisha.ac.jp/>

グローバル教育への
 関心が高まる中で
 国際教育をさらに充実



同志社国際学院
 よこたけんじ
 横田健司 校長

“Learning for Life, Learning for the World, Learning for Love”をモットーに掲げる同志社国際学院では、児童・生徒が自らの人生を豊かにしながら、世界的な視野で活躍できる資質を磨けるよう、成長のお手伝いをさせていただいています。WASCの認証を取得するなど、卒業生が活躍できる可能性が確実に広がっています。世界各国でグローバル教育への関心が高まっている中で、さらなる教育の充実を目指します。

初等部：IBのPYP認定を目指す

初等部は開校当時より日本語45%、英語55%で授業を行う教育課程特例を文部科学省から認められています。2015年度は同省より学習指導要領の学年規定を超える教育課程特例を追加取得しました。14年度に国際バカロレア (IB) 機構に初等教育課程プログラム (PYP) 認定を申請し、15年度にその適合性を検証するチームの来訪を受けました。その指摘事項をフォローし、16年度の認定を目指しています。

昨年度の6年生の米国への修学旅行では、IB交流校との合同フィールドトリップなども行い、新島の米国の育ての親である夫妻の墓参なども追加・深化させました。

国際部：WASCの認証を取得

14年度に米国西部地域私立学校大学協会 (WASC) の認証を申請し、15年度4月に調査団を迎え入れ、7月に認証取得しました。WASCはアメリカ合衆国のハイスクール卒業と同等の資格であるだけでなく、世界的な資格として認められており、これにより国際部の卒業生は日本を含む世界の大学の受験資格を得られることになります。

15年度に、同志社大学への指定校推薦入学制度を整備し、17年度から一定の要件を満たすと同志社大学の全学部に進学できることになりました。

国際部はすでに後期中等教育課程プログラム (DP)、PYPのIB認定校となっており、国際部の卒業生は、同志社大

学を含めた国内の大学、さらには世界各国の大学と、進路の選択肢が広がっています。

同志社国際学院2015年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教職員採用	初等部教諭1名採用(専任教諭)	担任1名
	初等部教諭2名採用(常勤講師)	担任1名、宗教1名
	初等部教諭1名採用(嘱託講師)	宗教1名
	国際部特別任用教諭3名採用	Elementary HR1名、Humanities1名、JSL1名
	教育サポーター1名採用	
教育・研究	初等部	母語(日本語)を基盤としたバイリンガル教育を継続：教育課程特例校。IB PYP認定を目指し、学習指導要領の学年規定を超える教育課程特例を追加取得。IB PYP認定予定(2016年7月)
	国際部	WASC認証取得。(2015年7月) 同志社大学への指定校推薦入学制度の整備。(2017年4月入学より) IB DP、PYP認定取得済み。
	教職員IBワークショップ参加	初等部：国内5名、オンライン2名 国際部：国内8名、オンライン1名
	初等部 校内IBワークショップ開催	
	初等部 宿泊体験学習	滋賀、奈良、美山、東京・安中
	初等部 修学旅行	6年生：アメリカ合衆国(アーモスト、ボストン)
	国際部 宿泊体験学習	海外：タイ王国 国内：滋賀、八チ高原、和歌山、箱館山
初等部校外学習	探究型のカリキュラムに沿い、校外学習を実施。	
国際部校外学習	国際バカロレアのカリキュラムに沿い、校外学習を実施。	
入試制度	編入、2016年度新入生の入学考査	初等部 秋学期入学、春学期入学編入試、新1年生入試(推薦、I枠、D枠) 国際部 随時実施
	財政	教育支援および施設・設備整備資金募集
		一口20万円(初等部・国際部)

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
視聴覚・情報環境整備	情報環境リブレース	2015年度	5,790万円	学生生徒納付金、寄付金
視聴覚・情報環境整備	初等部 IT教育設備拡充(iPad60台)	2015年度	83万円	学生生徒納付金、寄付金、補助金

入学定員、入学者数、収容定員、児童・生徒数(2015年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
初等部	60	60	360	345
国際部	75(25×3課程)	21	300	53

教員数、職員数(2015年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
49	1	50	3	2	5	55

同志社幼稚園



DATA ■創立 1897年
 ■所在地 〒602-0836 京都市上京区今出川通寺町
 西入常盤井殿町 543-1
 TEL : 075-251-4391
 ■URL <http://kinder.doshisha.ac.jp/>

生きる力となる
 「心情」と「意欲」を
 養う幼児保育の重要性



同志社幼稚園
 堂腰きみ子 園長

幼児教育は、短期的な視点で保育目標を計画するのではなく、3年間かけて達成目標をもって進めていきます。2015年度は、特に心情と意欲を養うための保育に力を入れました。目標達成を実感できる内容にもなったこの保育によって、子どもたちの生き生きとした姿を見ることができるようになりました。園児たちは、友達と共に行動して「共汗」とともに、「共感」しながら様々な力を身に付けています。

自分の力を発揮できるチャレンジ隊

心が揺さぶられて心情が生まれ、「面白そう」「やってみたい」と意欲がわいてきます。心情と意欲は生きる力の基礎になります。2015年度はこの2つを養うために自分の力を発揮し、目標を達成するチャレンジ隊という保育を取り入れました。お花を生ける「お花」、毛糸で花や暖簾などを編む「毛糸」と、「ハンドベル・聖歌隊」「ダンス」「運動」の5つの縦割りチームの保育です。

園児には自由に活動を選んでもらい、発表の場を設けると伝えました。子どもたちは自分の意思で選んだ活動に熱心に取り組み、年長組は年下の園児を助け、年中・年少の子は上の子に倣う様子が見られました。クラブ間で競争心を持って「負けない」という良い意味での欲も出てきました。

発表会では、「ハンドベル・聖歌隊」「ダンス」「運動」は日々練習して覚えたパフォーマンスを披露し、「お花」と「毛糸」はその場で作品を完成させました。年少、年中、年長組それぞれの発達段階がよく分かると同時に、年少組が年中と年長に、年中が年長に成長する1年後、2年後の姿が見える機会にもなりました。発表会は園児だけでなく、保護者、教員が一体となって感動する場となりました。子どもに関心と意欲を持たせ、導いていく保育は、最終的に子どもたちが多くのものを習得して

いくことを実感できました。

伝える力を身に付ける保育

15年度は年長組を対象に「ことば隊」と称して、教諭と園児がたくさん話す機会を設けました。「お休みの日に何をしていたの」というような質問に始まり、園児が日常で経験した驚きや感動を伝えられる内容に焦点を定めました。子どもたちは「はい」「いいえ」という答えだけでなく、実体験を語れ

るように、いつ、どこで何をしたかを文章で伝える力を身に付けていきました。2014年度に結成した「のびのび隊」の保育内容の強化もしました。キンダーカウンセラーのアドバイスを受けつつ、これまで培ってきた保育方法を実践し、子どもたちの気持ちを丁寧に聞き取るようにしました。

未就園児の預かり教室は週4回実施し、希望に応じて4回のうち1回、母子分離型のクラスも開きました。

同志社幼稚園2015年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教職員採用	教員の充実	教育充実のため嘱託教諭2名を新規採用
教育・研究	未就園児の預かり教室実施	地域の未就園児を受け入れて教育指導を行う未就園児教室の開催に重点的に取り組み、在園児や未就園児同士との交流など様々な体験を通して子どもの成長を促すとともに、地域の子育てを支援。
	預かり保育の充実	全園児を対象に週4回実施
	特別支援の充実	専門のキンダーカウンセラーの指導を受け、特別に支援の必要な園児のクラスを月1回程度実施。
	特技技能クラス編成	園児が得意な分野だけでなく不得手な分野の活動にも参加し、一人一人の力を発揮できるチャレンジ隊を実施。お花クラブ、毛糸クラブ、運動クラブ、ダンスクラブ、ハンドベル・聖歌隊クラブなどに取り組んだ。
その他	広報活動の充実	園での生活や取り組みについての積極的な情報発信のためホームページリニューアルと広報用DVDの作成を実施。

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
空調設備設置	保育室への空調設備の設置	2015年度	2,700千円	学生生徒等納付金、補助金
施設・設備整備	東門門扉修繕、空調室外機囲い設置、園児ロッカー増設、ロールスクリーン取付	2015年度	986千円	学生生徒等納付金、寄付金、補助金
園児用備品整備	ソフトベンチ21台、リトルコーンセット他	2015年度	498千円	寄付金

入園定員、入園者数、収容定員、園児数 (2015年5月1日現在)

	入園定員	入園者数	収容定員	在籍者数
幼稚園	30	34	100	107

教員数、職員数 (2015年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託教諭	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
2	8	10	0	0	0	10

同志社大学2015年ハイライト

ハイライト ① 教育・研究

「赤ちゃん学研究センター」が先端的教育研究拠点に

2008年度設立の「赤ちゃん学研究センター」が、15年度より本学の先端的教育研究拠点として新たなスタートを切りました（センター長：小西行郎教授）。これを記念し、同年9月24日に京田辺キャンパス夢告館でキックオフシンポジウムも開催しました。

「赤ちゃん学」は、小児医学のみならず、情報工学や人工知能、ロボット工学までの広い研究分野を融合し、21世紀の始まりにふさわしい新しい学問分野の創設を目指したものです。

様々な「子どもの心の問題」が社会問題化している現在、子どもの心と身体の発達とその関係が、それらの問題

の根本にあるとされています。本センターでは人の行動の始まりとしての胎児研究に注目し、新生児から乳児、幼児まで一貫した研究を行い、ヒトの始まりから生涯にわたる「“こころとからだ”の発生・発達メカニズムの解明」を目指しています。

シンポジウムでは、基調講演のほか、6名の研究者がそれぞれの専門分野の視点から講演を行いました。当日は研究者や企業の方をはじめ、保育士や理学療法士など実際に赤ちゃんに接する方、地域住民の方など、約130名の来場があり、盛会となりました。

また、本センターは文部科学省によ

る16年度からの「共同利用・共同研究拠点」事業の認定を受けました。今後、我が国の「赤ちゃん学研究拠点」として共同利用・共同研究を実施し、本学の研究拠点形成や研究活動推進への大きな寄与が期待されます。



2015年9月24日に開催された、先端的教育研究拠点「赤ちゃん学研究センター」キックオフシンポジウム

ハイライト ② 教育・研究

首都圏での定期開催は初、「新ビジネス」フォーラムが発足

首都圏の企業と連携して、同志社大学「新ビジネス」フォーラム（以下「フォーラム」）（座長：森下俊三ビジネス研究科特別客員教授（当時）、NTT西日本シニアアドバイザー）が発足しました。

フォーラム発足のねらいは、本学の研究者と産業界からの参加者が東京オフィスにおいて定期的に会合を持ち、本学の研究シーズと関連した新規事業の創出とグローバル時代の経済・産業・社会の動向や課題、ニーズを踏まえた研究の企画です。本学が首都圏で企業と連携したフォーラムを定期的実施



第1回「新ビジネス」フォーラムにて、座長として挨拶する森下俊三ビジネス研究科特別客員教授（当時）

するのは、初めての取り組みになります。

2015年3月10日にキックオフ・シンポジウムを開催。第1回フォーラムを「マイクロ世界の探求が新時代のビジネスを拓く」をテーマとして9月29日に開催しました。古賀智之理工学部教授は「生体に学ぶ“スマート高分子材料”の開発」、続いて山本大吾理工学部助教は「微小空間で起きる化学の力を利用した“様々な動き”」、そして最後に塚越一彦理工学部教授は「微小領域で生じる“溶液の風変わりな挙動”」と題して発表しました。

第2回フォーラムは、「これからのものづくり技術を支える高性能材料、製造プロセス・ロボット技術」をテーマに11月27日に開催しました。はじめに、江本顕雄理工学部准教授は「偏光回折格子を利用した“複屈折プロファイラー”の開発」、次に藤原弘理工学部准教授（当時）が「“高強度・高延性、

高耐摩耗性・高変形能、高熱伝導率・低熱膨脹率”を有する高性能材料の創製」、そして最後に廣垣俊樹理工学部教授が「産業用双腕ロボットによるプレート操り運動とその精度の実際」と題して、研究内容を発表しました。

さらに2016年3月16日には、「“赤ちゃん学”から始まる新しいヘルスケア技術の創成」をテーマにシンポジウムを開催しました。初めに小西行郎赤ちゃん学研究センター長・教授は「赤ちゃんの科学～異分野・異業種をつなぐ赤ちゃんの世界～」、続いて松田佳尚赤ちゃん学研究センター准教授が「機能リズム障害としての自閉症スペクトラム症／障害（ASD）」、最後に桜田一洋氏（ソニーコンピュータサイエンス研究所シニアリサーチャー）が「人生最初の1000日からはじまるヘルスケア」と題して講演しました。

今後も継続的に産業界と連携して、研究の推進に取り組んでいきます。

同志社女子大学2015年ハイライト

ハイライト ① キャンパス整備事業

今出川キャンパスに新心館が完成

2015年8月、今出川キャンパスに新心館が竣工しました。今出川キャンパス整備事業の一環として建てられ、食物栄養科学科関連の教育研究棟としての機能を担います。

新心館は地上3階・地下1階建て。実験・実習室は多様な実験実習活動を想定し、すべてに対応できる最適な基本モデル化を図り、実験内容の変更に対応できるよう設計しています。エントランスには直階段や吹き抜けを設け、

伸びやかで明るいインテリアと、共用部には交流スペースを配し、学生・教員の交流を促しています。

建物の名称の「新心」は新約聖書のローマの信徒への手紙12章2節、エフェソの信徒への手紙4章22～24節を出典としています。日々の営みが心身ともに新たにされるという願いが込められており、かつてこの場所にあった学内寮、学生福利厚生施設に名づけられていた名称でもあります。同じ場



外観はキャンパスの景観と調和

所に建設された新棟がこの館名を継承することで、キャンパスに培われたキリスト教の精神がいつそう守られ、次代に伝えられることが期待されています。

ハイライト ② 社会との連携

日本航空と包括的連携協定を締結

2016年3月、日本航空株式会社と包括的連携協定を締結しました。この協定は、人的・知的資源の交流と活用を図り、教育・研究・文化などの分野で社会の発展と教養豊かな国際人材育成に寄与することを目的としています。

協定では、教育・研究・文化の発展・向上に向けての相互支援や、学生・教職員と社員との相互交流、学生の人材育成・キャリア形成、大学の研究成果

の活用などが連携・協力事項として盛り込まれています。

同志社女子大学は、航空会社の客室乗務員の採用者数が2010年からの5年間で、全国の大学で5位、女子大では1位となりました。例年、航空会社で働くことを志願する学生が多いことから、日本航空社員による航空業界に関する講義や、空港施設の見学・就業体験など、学生のキャリアデザインに関する



京田辺キャンパスで行われた日本航空との調印式

取り組みも検討されています。この協定により、国際社会で活躍できる学生の育成とともに、女性が輝く社会づくりに貢献できることを目指します。

ハイライト ③ 海外研修

新島襄ゆかりの地を巡るニューイングランド研修

創立者新島襄が学び、同志社精神の礎を形作った米国ニューイングランド地方ゆかりの地を巡り、建学の精神を振り返ること、および米国の歴史や文化を学ぶことを目的に2016年2月末より2週間の行程で海外研修を実施しました。今回が2回目の実施となり、学生9名と引率教職員2名が日本で数回の事前授業を行った後、ボストンを出発点として各地を巡りました。

新島が過ごしたアーモスト大学やフィリップスアカデミーでは、彼が残

した貴重な資料を手にとって調べたり、同志社設立のための基金を募る演説を行ったラットランドのグレイス会衆派教会では、日曜の礼拝に参加して学生代表らが壇上でスピーチを行い、教職員の方々が持ち寄ってくださった手料理を囲んでの交流会を行うなど、見学にとどまらない経験ができました。

また、清教徒が最初に入植した地であるブリマスや、『若草物語』の舞台であり、独立戦争の発端ともなったコンコードなど、米国の歴史と文学に関する



ラットランドのグレイス会衆派教会にて

る見所も多く、最後にはニューヨークでミュージカル観劇を行うなど、現代の米国の魅力も十分に楽しんで、実り豊かな研修となりました。

各学校2015年ハイライト

ハイライト ① 同志社中学校・高等学校

全国高校選抜ラグビー大会に初出場

2015年3月30日から4月7日(4月2、5日は休養日)に埼玉・熊谷ラグビー場で開催された第16回全国高校選抜ラグビー大会に、同志社高校ラグビー部が実行委員会推薦枠で初出場しました。

予選Dグループに割り当てられ、3月31日に対荒尾高校戦、4月1日に対日川高校戦、4月3日に対春日丘高校戦でしたが、惜しくもいずれも敗退し、決勝

トーナメント進出はなりませんでしたが、しかし全国大会という舞台で気合の



入ったプレーを見せ、観客席をわかせることができました。



ハイライト ② 同志社香里中学校・高等学校

「息子・娘を入りたい学校2015」で全国1位に

同志社香里中学校・高等学校は、『週刊ダイヤモンド』2015年8月22日号の特集「息子・娘を入りたい学校2015」で、トップの評価を得ました。これは、ダイヤモンド社が同年6月から7月初旬にかけて、東京、埼玉、千葉、神奈川、大阪、京都、兵庫、奈良の8都府県、約480の中高一貫校を対象にアンケートを実施

し、英語力、キャリア教育力、経営力(財務の健全性、運営の安定性)を点数化して、ランク付けしたものです。同校は、英語教育力でランキング校の中で最高の10点(12点満点)の評価、キャリア教育力も10点中7点と高い評価を獲得し、ランキング1位となりました。

記事中では、「最近、留学や研修など

で生徒を海外に派遣する際に、多くの学校では教師の引率がない場合が多い中、同志社香里では英語科担当に限らず教師が引率、教師が生徒同様に海外研修をしている」とも評価されました。

今回取り上げられたことの反響は大変大きく、卒業生はもとより多くの方々から称賛の声をいただきました。

ハイライト ③ 同志社女子中学校・高等学校

新しい希望館が竣工、使用が始まる

同志社女子中学校・高等学校では、2013年夏に着手した新校舎建設工事が16年3月に竣工、4月から使用を始めています。新校舎の館名は旧校舎名を引き継ぎ「希望館」。この新「希望館」の魅力は、見通しと風通しの良さです。生徒、教職員の視線が自然と交わり、学校としての一体感を醸成しています。回遊性のある廊下や通路は散策路のようにホームルーム教室や特別教室、メディアコーナーにつながっています。「学びの森」をイメージした中央部吹き抜けには天窓から光が降り注ぎ、スクールアトリウムは多彩な学びや交流活動の中心となっています。

地階の食堂の名称は「ガリラヤ」。生

徒・教職員に公募し、生徒会執行部と建設委員会(教職員)の投票で選ばれました。ガリラヤはイエスが生涯の大部分を過ごし、伝道の主要舞台となった場所です。食堂の壁面には聖書の「種蒔く人」をイメージした陶板が設置されています。また、黎明チャペルには聖書の「ぶどうの木」と黎明のイメージを重ねてデザインされたステンドグラスが入れられ、厳粛な空間を美しい光が照

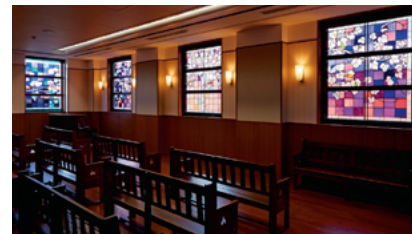


らしています。

解体する黎明館のブラケット照明を食堂に移設し、旧希望館の館名表示を新希望館に使用するなど、姿を消す2つの校舎の思い出も大切に残しました。

屋上庭園からは京都の山並みが見わたせます。生徒たちが様々な場所で心を育み、成長するよう願っています。

なお、16年度末には、人工芝のグラウンドが完成する予定です。



ハイライト ④ 同志社国際中学校・高等学校

SGHに採択、環境問題に関する提言を目指す

同志社国際高等学校は、2014年に文部科学省からSGH（スーパーグローバルハイスクール）アソシエイトの指定を受けていましたが、15年に正式にSGHの指定を受けました。SGHは、将来、国際的に活躍できる「グローバルリーダー」を高等学校段階から育成する事業であ

り、SGH指定校は、本事業を踏まえたグローバルリーダー育成に資する先進的な教育の開発・実践に取り組む高等学校です。

SGH指定校がそれぞれ指定する研究開発構想として、同校は「持続可能な社会を担うグローバル人材育成プログラ



ム～環境先進国に学び世界に提言～」をテーマにしました。環境問題について、環境先進国に学びつつ、実際に現地を視察して解決方法を探り、国連などに提言していくことを目指しています。

ハイライト ⑤ 同志社小学校

開校10年を迎え、記念事業を実施

同志社小学校は同志社大学附属の小学校として開校され、2015年で10年目を迎えました。岩倉の地で、同志社中学校・高等学校が立ち並ぶ北側にすっきり収まり、落ち着いた佇まいを見せています。開校以来、教職員が継続的な努

力を重ねたことにより、同志社の初等教育の基礎を着実に築いてきました。幼稚園から大学、大学院への同志社一貫教育において、初等教育は初期の6年間という長い期間を担い、パーソナリティーや勉学に対する基本的な方向性を修得

させる重要な位置付けにあります。

開校10年の記念事業としては、運動場の防球ネット設置、校歌の作詞者である谷川俊太郎氏を招いた式典を実施しました。また今年度中に記念誌の発行も予定しています。

ハイライト ⑥ 同志社国際学院

河瀬監督の協力の下、作品を製作、なら国際映画祭での紹介も

2016年2月10日、アップルストア心斎橋店にて、同志社国際学院初等部の5年生がiPadで製作した映像を発表する機会をいただきました。今回の取り組みは、15年12月に映画監督で「なら国際映画祭」のエグゼクティブディレクターとしても活躍されている河瀬直美監督にお越しいただき、スタートしました。そこで子どもたちは、映像の

持つ意味やスキルについて、河瀬監督からお話を伺いました。そして、「人々は特定の視聴者を狙ってメッセージを作ることができる」というセントラルアイデアの下、奈良の自然や伝統文化にスポットを当て、自分が伝えたいことや、表現したいメッセージをiPadで撮影、編集し、映像作品にまとめました。アップルストアでは、全30作品のうち、

12作品を上映し、河瀬監督から講評をいただき、貴重な体験をすることができました。



ハイライト ⑦ 同志社幼稚園

一貫教育の周知と触れ合いのためのお茶会を開催

2015年11月10日、同志社礼拝堂前の広場で同志社幼稚園のお茶会が開かれました。このお茶会は、創立者新島襄の思いのもとに、幼稚園から大学までの一貫教育であるということも多くの方に知っていただくとともに、子どもたちと触れ合っていたいだきたいとの考

えから、毎年開催されています。

園児たちは普段おけいこを積んでいて、初めてのおもてなしに緊張した表情で、慎重にお茶菓子やお茶を運んでいました。子どもたちの精一杯のおもてなしに、保護者や参加者のみなさんは、終始和んだ気持ちになったようです。



法人の取り組み

江崎氏、徳富氏の2名を新たに社友に選定

2015年12月19日開催の理事会において、江崎玲於奈氏（ノーベル物理学賞受賞物理学者）、徳富次郎氏（株式会社キョクレイ）の2名が新たに社友として選定され、2016年3月26日、「同志社社友記贈呈式」にて両氏に対して社友記が贈呈されました。

大谷實総長は式辞の中で、「江崎氏の学術、実業界、教育界での実績は特筆に値するものである。同志社では、旧制同志社中学校でお過ごしになったご縁がある。また徳富氏は、同志社の大恩人、徳富蘇峰の曾孫に当たる方で、徳富敬太郎様ご逝去にあたり、後任と



して社友の称号をお受けいただき、光栄に思う」と述べました。

京都府と連携・協力包括協定を締結

2015年12月1日、京都府庁において、山田啓二知事をはじめ同府関係者、水谷誠理事長、村田晃嗣大学長、加賀裕郎女子大学長ほか学校法人同志社関係者出席のもと、京都府と学校法人同志社との連携・協力に関する包括協定調印式が執り行われました。

協定では協力項目として、①学術・研究交流、②文化・スポーツの交流、③国際交流、④地域振興、⑤福祉のまちづくり、⑥地球環境問題への対応、⑦地域産業を担う人材の育成・地元定着、の7つの連携項目を盛り込まれています。

京都府と同志社はこれまでも個別的



な連携は行っていましたが、本締結を機に連携が一層推進していくことが期待されています。

立石ファンド成果報告会を実施

立石ファンド事業は2011年度から同志社各中学校・高等学校の英語力強化を目的として様々な事業を実施し、15年度で最終年度を迎え、16年2月13日に成果報告会を開催しました。

当日は、各学校の教諭・生徒から立

石ファンド事業について、中学生・高校生英語大会などの共通プログラムや4中高での取り組みの報告がありました。寄付者の立石信雄氏からは、「自分のためだけではなく、周りにも影響を与えられるような存在になってほしい。挫折



や失敗は恐れるべきでない」と生徒に向けてメッセージをいただき、報告会が締めくくられました。

【自然災害に対する緊急措置】台風や噴火、地震の被災者を対象に学費減免

2014年に続き、15年も大きな自然災害が続きました。同志社大学は「東日本大震災被災受験生に対する入学検定料及び被災学生に対する学費減免措置」を継続するとともに、次の15年の大規模自然災害についても、在学生を対象に学費減免措置を実施しました。同志社女子大学も同様の措置を実施しました。

【山口県】島根県新島嶼火による被害に伴う学費減免の実施
【鹿児島県】熊毛郡屋久島町

【台風第18号等による大雨による被害に伴う学費減免の実施】
【茨城県】古河市、結城市、下妻市、常総市、守谷市、筑西市、坂東市、つくばみらい市、結城郡八千代町、猿島郡境町

【栃木県】栃木市、佐野市、鹿沼市、日光市、小山市、下野市、下都賀郡野木町、下都賀郡壬生町
【宮城県】仙台市、栗原市、東松島市、大崎市、宮城郡松島町、黒川郡大和町、加美郡加美町、遠田郡涌谷町

【台風第21号による被害に伴う学費減免の実施】
【沖縄県】八重山郡与那国町

廃棄物の処理及び清掃に関する法律違反について

学校法人同志社は、大学今出川キャンパス及び学生寮等の廃棄物処理にあたり、京都市の許可を得ていない業者に一般廃棄物の収集及び運搬業務を委託したことにより、2016年3月に廃棄物の処理及び清掃に関する法律違反による略式命令（罰金）を受けました。皆様方にご心配とご迷惑を

おかけし、心よりお詫び申し上げます。なお、法律違反に該当する廃棄物の収集及び運搬業務につきましては、2015年12月以降、許可を受けた業者に委託するよう是正しております。

学校法人同志社は、法人内のコンプライアンス意識、チェック体制や情報伝達体制に問題があっ

たことを重く受け止めるとともに、このような事案の再発防止と説明責任を果たすために外部委員会による第三者委員会を設置しました。今後、同委員会からの報告を受けて、法令を遵守して業務を遂行できる体制を整備してまいります。

特集1

創立140周年記念事業

新たな未来への礎として
豊富な記念行事を開催

2015年度は、1875(明治8)年11月29日、寺町丸太町上ルの仮校舎で新島襄が同志社英学校を開校してから140年を迎える記念すべき年となり、同志社では様々な行事を開催しました。

企画展で開校当時に回顧

2015年4月21日から6月21日まで、ハリス理化学館同志社ギャラリー2階企画展示室において、第6回企画展「同志社創立140周年記念 はじまりの地—ラットランドから寺町丸太町、今出川へ—」を開催しました。

本展では、同志社発祥の地である寺町丸太町を中心に、原資となる5000ドルの寄附が集まった米国ラットランドから、初めての専用校舎が建てられた今出川まで、同志社の「はじまり」に関わる土地に着目して資料を展示。当時の資料を見ながら同志社開校の経緯を振り返ることができる、貴重な機会となりました。



記念シンポジウムを開催

2015年11月20日、良心館107番教室にて、同志社創立140周年記念シンポジウム「リベラルアーツ教育の日米比較」を開催しました。

冒頭、大谷實総長の挨拶に続き、川口章大学全学共通教養教育センター所長が趣旨説明を行いました。続くプロ

グラムでは当初、アーモスト大学のデイ・マーティン学長の基調講演が予定されていましたが、事情により来日が高ななかつたため、当日はサムエル・モース教授が「アメリカのリベラルアーツ教育」と題した講演内容を代読。主な内容は、リベラルアーツ大学の特色や課題、アーモスト大学の教育の仕組みの紹介でした。

続いて、国際基督教大学の日比谷潤子学長から「ICUのリベラルアーツ教育」と題した招待講演が行われ、学生が身につけるべき5つの力とICU(国際基督教大学)の教育内容について紹介がありました。その後、村田晃嗣大学長が両講演の内容を踏まえて本学の今後の展開についてコメントを述べ、パネルディスカッションに移りました。そこでは、学生寮の仕組みや寮での学び、海外からの学生を増やす方策、大規模大学におけるリベラルアーツ教育の取り組みについて主に議論が行われました。



日米の代表的なリベラルアーツ大学からの講演とシンポジウムに参加者は興味深く聞き入り、質疑応答も活発に行われ、今後の同志社大学の取り組みを展望する140周年の記念にふさわしいシンポジウムとなりました。

創立140周年記念式を挙

2015年11月29日、大学神学館礼拝

堂にて「創立140周年記念式」を執り行いました。

式は、高橋聖子女子大学嘱託講師の奏楽、木村良己中学校・高等学校長の司会で進められ、讃美歌「21-412」の斉唱、石川立大学キリスト教文化センター所長による聖書朗読・祈禱に続き、村田晃嗣大学長が「同志社設立の始末」を朗読しました。

「同志社設立の始末」は、幕末に函館から脱国してアメリカ合衆国で学び、大学設立の志を抱いて帰国した新島襄が、山本覚馬と共に京都で同志社を結社して同志社英学校を設立した経緯の大概です。参列者一同が新島襄、山本覚馬、宣教師デイヴィス、同志社英学校開校時の8名の生徒、そして新島襄の妻・八重をはじめとした関係者に思いを馳せました。

大谷総長の式辞では、140年の歴史を振り返り、多くの困難の一つひとつ克服して今日の同志社を築いてきた教職員に対する感謝の意が表明されました。



そして、一同が永眠者に記念黙禱を捧げ、カレッジソング、頌栄「21-27」を斉唱したのち、山本真司国際中学校・高等学校宗教センター主任により祝祷が行われました。最後に、水谷誠理事長からの永年勤務者に対する表彰状と記念品の贈呈で、式は締めくくられました。

特集2

良心教育に関するシンポジウム

「良心」をどのようにして育てるか
中高での良心教育の在り方を探る

同志社教育の原点である良心教育を全学的に見直す機会として、「良心教育に関するシンポジウム」を2013年度から毎年開いています。

2015年度は、2016年1月22日に良心館地下1番教室にて開催（京田辺校地には知真館1号館232番教室へ映像配信）。中学校、高等学校段階での良心教育をテーマに、良心教育について同志社に何が必要で、何をすればよいのか、活発に意見が交わされました。

良心としての内なる声を育てる

当日は、大谷實総長の開会の挨拶に続き、同志社大学神学部の石川立教授が「大学が求める良心教育」と題して基調講演をしました。

石川教授は、「良心」という語について、さまざまな定義があるなか、「内なる声」とします。そして「内なる声に気づき、積極的に育てていく。そして、判断の基準とし、これに従う。そうすることで、世間の声や判断に振り回されることなく、自由に自立して生きていけるようになります」と、内なる声を育てる意義を説明します。

良心である内なる声に気づき、対話を豊かにし、育てるにはどうしたらいいか。そこで石川教授が提唱したのが、「出会い」です。

「人との出会いをはじめとして、本との出会い、芸術との出会い、ある世界観

との出会いなど、さまざまな出会いがあります。こうした出会いによって、他者に対する想像力、他者の事情を顧慮する思いやりなどが育つのではないのでしょうか。そして、内なる声への感受性が高まるのではないかと思います」と石川教授は言います。

「そして、出会いによって他者に対する尊敬の念を持つことができます。尊敬から謙虚さや、真実への畏敬の念も生まれます。こうした出会いの場を準備し、提供する。また、出会いを邪魔する考え方、心の動きを取り除く。それが教育でできることではないでしょうか」と基調講演を結びました。

何が良心教育の実践となるのか

基調講演の後には、「中高における良心教育」と題したパネルディスカッションが行われました。女子大学学芸学部の中村信博教授がコーディネータを務め、中学校・高等学校の伊藤博士教諭、香里中学校・高等学校の富田正樹教諭、女子中学校・高等学校の酒井由行教諭、国際中学校・高等学校の山本真司教諭と、各中学校・高等学校で教育の現場に携わる4氏がパネリストとして登壇しました。

伊藤教諭は「命や良心は自ら学び取り、感じ取るもの。知識や技術は教えることができても、命や良心を教えることは難しい」と、良心教育が決してたやす

いことではないことを指摘。その上で「良心を学び取る、感じ取るができる空間をつくるのにエネルギーを注ぐのが、教育に携わる私たちの仕事だと思っています」と意見を表しました。

続いて、酒井教諭が強調

したのは礼拝の役割です。同志社では、日々の礼拝によって学校の気風がおのずからかたちづくれます。そのことが、良心教育の基盤になります。「私たちは普段、生徒に笑顔で接していますが、『あなたはそれでいいのか』と厳しく説諭し、良心に働きかけなければいけない場面があります。そうしたとき、礼拝によって連綿と積み重なった気風が力になるのです」と酒井教諭は言います。

また、富田教諭も礼拝の意義を指摘しました。礼拝で教員が話すのは、良心的な生き方のサンプル。人間誰しも欠点があり、教員も例外ではありません。しかし、そうした欠点を乗り越えて生きていくことが礼拝では話されます。「卒業するころには、礼拝の細かい内容は忘れていくかもしれませんが、礼拝を重ねることで生き方を考える脳の回路ができていくのではないかと。それが、卒業後の人生で力を発揮するのではないかと。そう信じて教育に当たっています」と、良心教育としての実践としての礼拝に説明がありました。

そして、山本教諭が取り上げたのは良心教育の指針についてです。内なる声としての良心を引き出すには、引き出す方向性を示す必要があります。「教職員が別々の方向を向いては、生徒は戸惑うでしょう。指針となるのは、聖書の教え。イエス様ならどうするだろう。それを良心の基盤と考えています」と話しました。

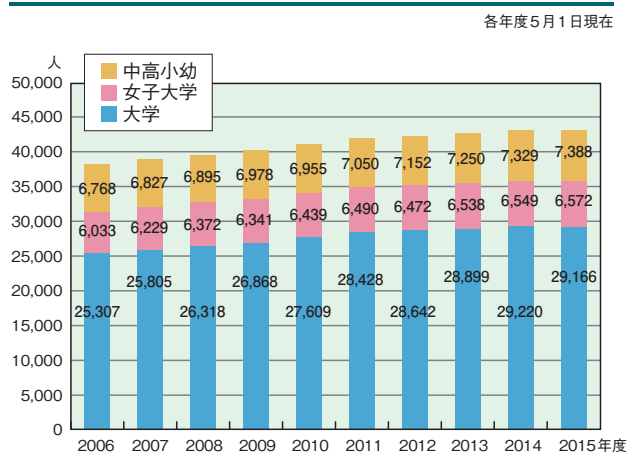
続く質疑応答では、教職員や父母などから様々な質問や要望があり、中学校・高等学校における良心教育について理解を深めるとともに、同志社における良心教育の重要性、良心教育に寄せられる期待を改めて認識するシンポジウムとなりました。



特集3 グラフで見る同志社

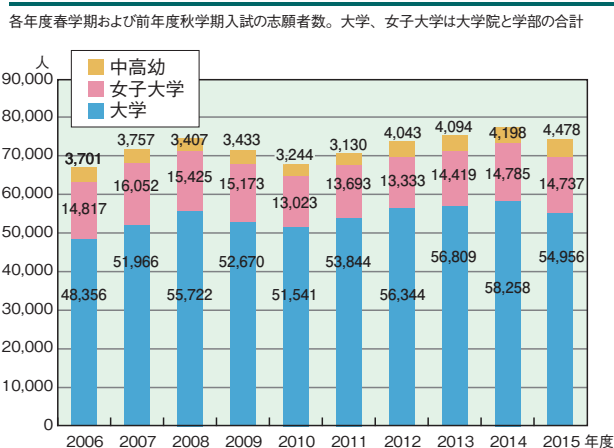
※小学校は2006年度から含んでいます。
※国際学院は2011年度から含んでいます。

図1 学生・生徒・児童・園児数



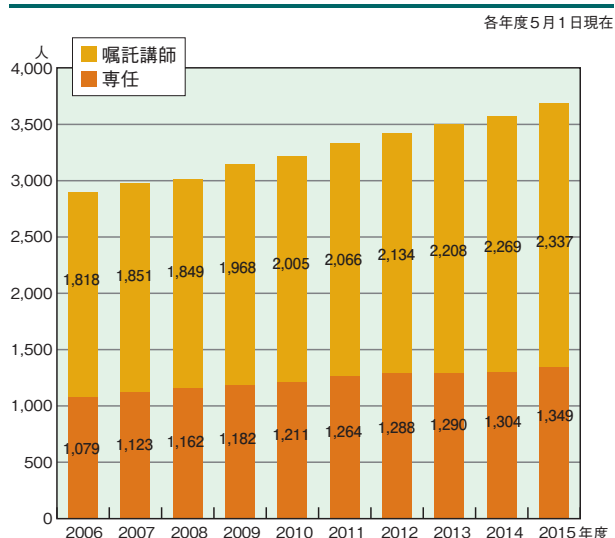
学生数は、これまで大学、女子大学の学部増設に伴って増加していましたが、4万3000人規模で安定した状況になっています。

図2 志願者数



2015年度は、大学、女子大学の志願者数減少が影響して総志願者数が減少いたしました。しかし、両大学以外の学校では、毎年着実に志願者を増やしています。

図3 教員数



教員数は、学部・研究科の新設や研究体制の整備など教学改革の進行に伴って、専任、嘱託講師とも増加しています。職員数については、非専任の活用や一部業務の外部委託を進めながら、事務組織の強化を図っており漸増しています。

図4 職員数

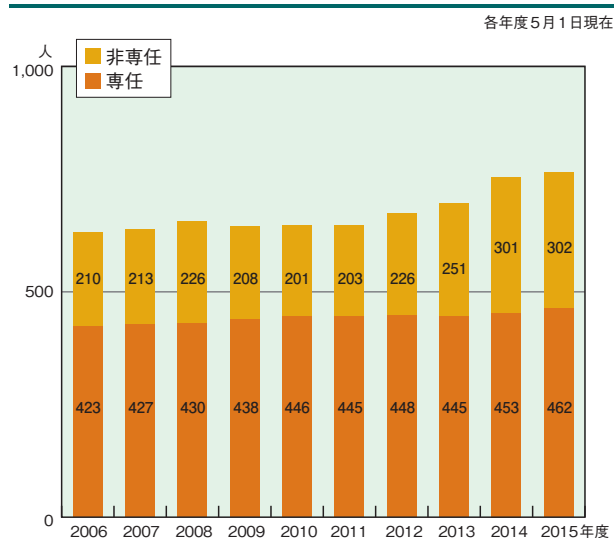
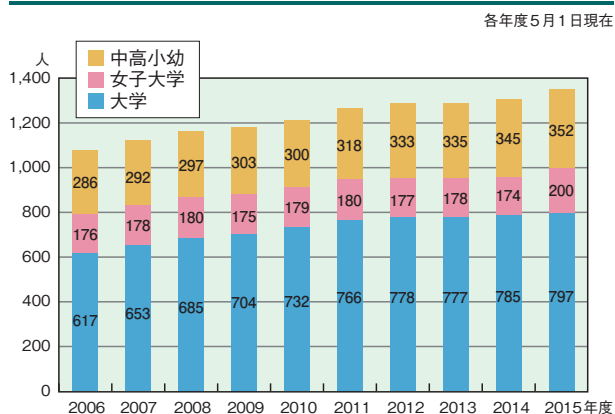


図5 専任教員数



2006年の小学校、2011年の国際学院初等部・国際部の設置、大学、女子大学の新学部・研究科への新規採用などにより、近年は専任教員数の増加傾向が続いています。

図6 専任教員1人当たりの学生・生徒・児童・園児数

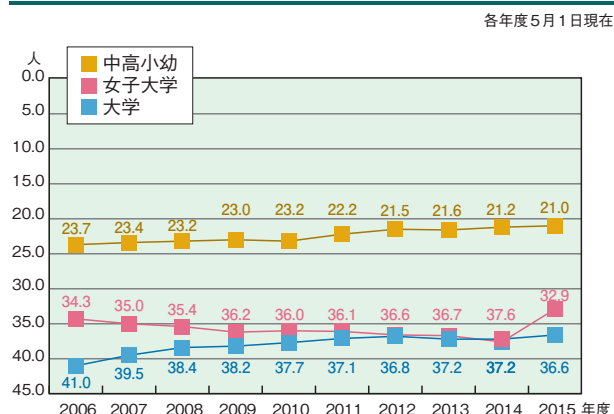
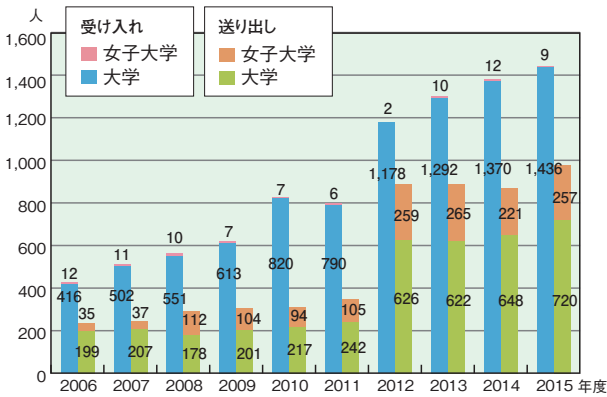


図1の学生生徒数を図5の専任教員数で割ったのがこのグラフで、数値が小さいほど教育研究条件の充実度が高いと考えられます。近年は各校ともほぼ同じ水準を保っています。女子大学は、看護学部の設置により、2015年度の専任教員1人当たりの学生数が減少しています。

図7 留学生数

各年度5月1日現在。ただし、2012年度から送り出しは年度内に出国した人数



大学における文部科学省の「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業(グローバル30)」の採択(2009年度)などにより、留学生の受け入れは増加を続けています。送り出しについても、文部科学省の「グローバル人材育成推進事業(Go Global Japan)全学推進型」の採択(2012年度)により、着実に増加しています。

図8 留学生地域別状況

受け入れは5月1日現在。送り出しは年度内に出国した人数

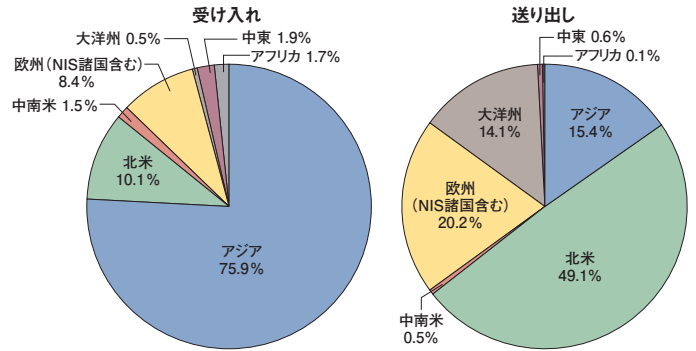
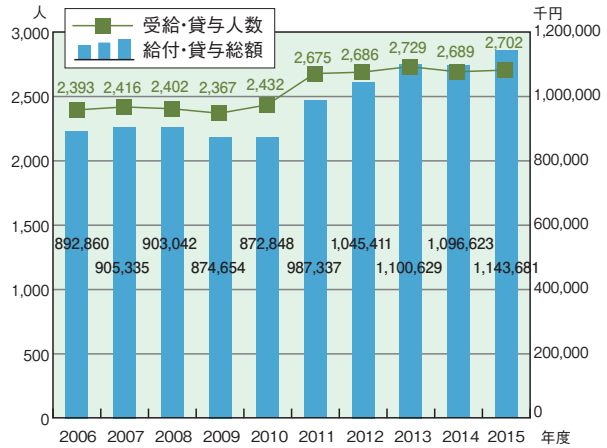


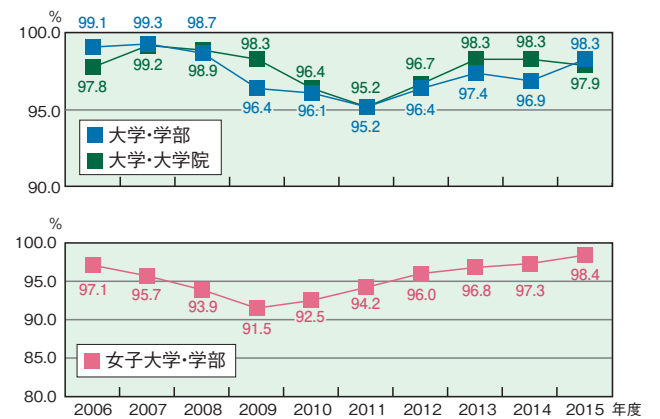
図9 学内奨学金

大学奨学金の入学前募集については、2011年度までは給付決定数、2012年度より辞退者を除く支給実績で集計



給付・貸与人数は、近年2700人前後で推移していますが、給付・貸与総額は11億円を突破しています。今後も制度の充実を図ることで学生生徒の勉学を支えてまいります。

図10 就職率(内定率)



就職率(内定率)とは就職希望者数に対する就職決定者数の比率です。景気変動により、年によって若干の低下がみられるものの、安定的に高い水準を維持しています。

図11 科学研究費補助金

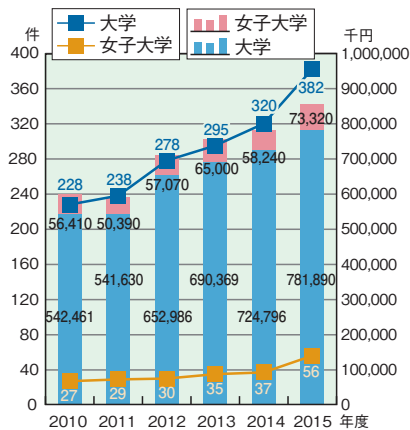


図12 受託研究費

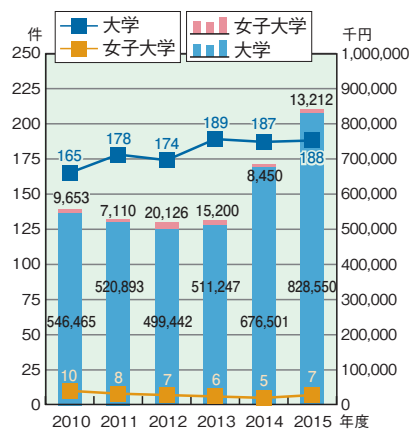
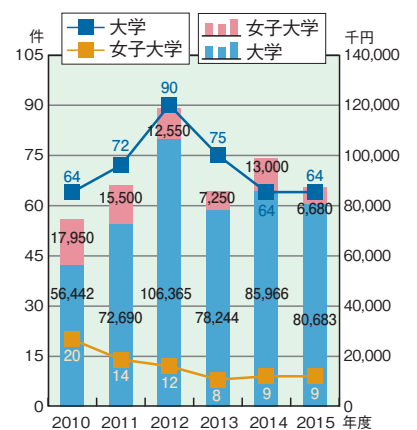


図13 奨学寄付金(研究助成)



折れ線は各研究費の採択・受け入れ件数、棒グラフは金額を表しています。研究支援体制の強化、産官学連携の推進を図っており、研究費に対する外部資金の導入は順調に進んでいます。

概況

2015年度は、大学の「免許資格課程センター」に新たに教員組織を設けました。女子大学では、「看護学部」を京田辺キャンパスに開設し、国際中学校・高等学校では、中学校の定員増を行い、国際学院初等部からの新入生を初めて迎え入れました。

法人内諸学校の学生・生徒・児童・園児数は、学部の年次進行などにより、昨年度比23名増加の42,827名(2016年2月末現在)となり、学生生徒等納付金の安定的収入を確保することができました。

また、安定した入学志願者数の確保により、手数料で予算額を上回る増収となりました。寄付金も大学への研究助成宛の奨学寄付金や、女子中学校・高等学校への新校舎建設事業宛寄付金などの増収、付随事業収入・収益事業収入も受託事業収入などの増収により、事業活動収入総額は予算を大きく上回っています。

支出では、経常的な事業支出は経費の節減や執行残等により減少しました。建設事業では、大学の耐震改修工事や、サッ

カー場、アメリカンフットボール場の人工芝改修工事、女子大学の年次計画による今出川キャンパス整備事業、中学校・高等学校でのしらすぎ会館改修工事、女子中学校・高等学校の新校舎建設工事などの事業を実施しました。

以下、学校法人会計基準に基づく計算書を中心にして、本年度の本学の財政状況を説明します(文中、表の金額は、説明のため百万円未満を四捨五入等調整し、百万円単位で表しています)。

資金収支計算書

2015年度法人総合資金収支計算書は表1のとおりです。

〔()内は予算比: +は増加、△は減少〕

(1) 収入の部

学生生徒等納付金収入

479億2,000万円(+1億200万円)

予算積算時の収納見込額からの差異により、大学で7,700万円、女子大学で2,300万円の増収です。

手数料収入

22億4,200万円(+8,700万円)

入学検定料は、予算計上数に対する入学志願者数の増加により、大学で6,100万円、国際中学校・高等学校で800万円の増収のほか、各学校においても増収です。

寄付金収入

6億1,800万円(+1億6,800万円)

民間企業等、在学生の保護者、卒業生、父母の会、校友会等からの寄付の他、国際化推進事業や研究助成宛の奨学寄付、大学の寄付教育研究プロジェクト研究活動宛の寄付や女子中学校・高等学校新校舎建設事業宛の寄付等により、大学で予算に対して1億9,700万円の増収、女子大学で4,800万円、女子中学校・高等学校で3,300万円の増収となりました。

寄付金明細はファクトブックに掲載しています。

補助金収入

58億4,700万円(△1億500万円)

国庫補助金は、日本私立学校振興・共済事業団等から大学、女子大学への私立大学等経常費補助金や文部科学省から大学、女子大学への私立学校施設整備費補助金の他、文部科学省から大学への国際

化拠点整備事業費補助金や研究拠点形成費等補助金などで、予算に対して8,600万円減収の39億8,300万円となりました。

地方公共団体補助金は、京都府や大阪府等から各中学校・高等学校、小学校、国際学院、幼稚園への私学運営費補助金、授業料軽減補助金などで、予算に対して2,000万円減収の18億6,300万円となりました。

補助金明細はファクトブックに掲載しています。

付随事業・収益事業収入

13億7,200万円(+1億7,400万円)

企業等からの受託研究による収入、寮費や小学校給食費、国際学院スクールバスでの収入、知財のロイヤリティなどを計上しています。大学、女子大学の受託事業収入は、受託研究契約に基づき7,700万

表1 2015(平成27)年度 法人総合資金収支計算書

(単位: 百万円)

支出の部				収入の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
人件費支出	30,957	30,818	139	学生生徒等納付金収入	47,818	47,920	△102
教育研究経費支出	17,451	16,930	521	手数料収入	2,155	2,242	△87
管理経費支出	2,722	2,751	△29	寄付金収入	450	618	△168
借入金等利息支出	9	9	0	補助金収入	5,952	5,847	105
借入金等返済支出	147	147	0	資産売却収入	0	0	0
施設関係支出	5,277	3,648	1,629	付随事業・収益事業収入	1,198	1,372	△174
設備関係支出	2,179	2,822	△643	受取利息・配当金収入	915	954	△39
資産運用支出	3,825	28,630	△24,805	雑収入	948	1,075	△127
その他の支出	1,735	2,061	△326	前受金収入	9,619	10,518	△899
予備費	120	0	120	その他の収入	2,781	27,362	△24,581
資金支出調整勘定	△1,373	△2,053	680	資金収入調整勘定	△10,966	△11,459	493
次年度繰越支払資金	22,953	25,818	△2,865	前年度繰越支払資金	25,132	25,132	0
支出の部合計	86,002	111,581	△25,579	収入の部合計	86,002	111,581	△25,579

ファクトブックに、中科目かつ円単位で表示した資金収支計算書を掲載しています。

円の増収です。

受取利息・配当金収入

9億5,400万円 (+3,900万円)

第3号基本金、退職給与、減価償却など引当特定資産運用収入及び受取利息・配当金は実績により3,900万円の増収となりました。

雑収入

10億7,500万円 (+1億2,700万円)

施設設備利用料収入は4,900万円の増収、退職金財団交付金収入は6億1,300万円で、大学、女子大学での依願退職者の見込みからの増により4,800万円の増収、特許出願支援や損害保険料等により、その他雑収入で4,400万円の増収となりました。

その他の収入

273億6,200万円 (+245億8,100万円)

第2号基本金引当資産売却収入は建設事業への充当、第3号基本金、退職給与、減価償却など引当資産売却収入は満期を迎えた有価証券の償還などによるものです。また、学校法人会計基準改正に伴う勘定科目の組み替えによる増加です。

(2)支出の部

人件費支出

308億1,800万円 (△1億3,900万円)

教員人件費は214億7,500万円で、予算に対して6,000万円の減少、職員人件費は81億7,000万円で2億円の減少となりました。退職金支出は11億4,700万円で、依願退職者数の見込みからの増加に伴い、1億2,200万円増加しました。

なお、前年度に比べると、教員人件費は5億2,000万円の増加、職員人件費は1億3,400万円の増加となっています。

教育研究経費支出

169億3,000万円 (△5億2,100万円)

教育研究費、実験実習費の予算執行残や、主に消耗品費、光熱水費、旅費交通費、図書の節減により、総額では予算内に収まりました。

なお、前年度に比べると、主に奨学費、

委託費、諸用費の支出増などで予算額を上回り2億4,700万円の増加となっています。

管理経費支出

27億5,100万円 (+2,900万円)

節減や未執行による減少があるものの、修繕費、委託費、消費税の支払いによる公租公課増などにより、予算額を上回りました。

なお、前年度に比べると2,800万円の増加となっています。

借入金等利息支出

900万円 (予算どおり)

過年度に建設した校舎等の建築資金に対する日本私立学校振興・共済事業団からの借入金の利息支払額です。

借入金等返済支出

1億4,700万円 (予算どおり)

上記借入金の約定返済額です。

施設関係支出・設備関係支出

計64億7,000万円 (△9億8,600万円)

建物、構築物、機器備品、図書、ソフトウェアなどの固定資産取得による支出です。なお、固定資産への計上が必要とされるリース取引にかかるリース料総額を含んでいます。

大学では今出川校地での耐震改修工事ならびに京田辺校地サッカー場、アメリカンフットボール場人工芝改修工事、女子大学では今出川キャンパス整備事業、中学校・高等学校では校地整備事業、女子中学校・高等学校では新校舎建設事業等を実施しました。

内訳については各校の「事業の概要」の「施設設備整備事業の内容」をご覧ください。

資産運用支出

286億3,000万円 (+248億500万円)

有価証券の満期償還にともなう引当資産などの買い替え、また本年度に増額した第3号基本金、減価償却引当資産に対する引当資産への繰り入れです。また、学校法人会計基準改正に伴う勘定科目の組み替えによる増加です。

表2 2015(平成27)年度
法人総合活動区分資金収支計算書

(単位：百万円)

科目		金額
教育活動による資金収支	収入	
	学生生徒等納付金収入	47,920
	手数料収入	2,242
	特別寄付金収入	354
	一般寄付金収入	39
	経常費等補助金収入	5,413
	付随事業収入	1,372
	雑収入	1,061
	教育活動資金収入計	58,401
	支出	
人件費支出	30,818	
教育研究経費支出	16,930	
管理経費支出	2,738	
教育活動資金支出計	50,486	
差引	7,915	
調整勘定等	515	
教育活動資金収支差額(A)	8,430	
施設整備等活動による資金収支	収入	
	施設設備寄付金収入	225
	施設設備補助金収入	433
	第2号基本金引当特定資産取崩収入	7,510
	減価償却引当特定資産取崩収入	9,800
	施設整備等活動資金収入計	17,968
	支出	
	施設関係支出	3,648
	設備関係支出	2,822
	第2号基本金引当特定資産繰入支出	8,630
減価償却引当特定資産繰入支出	11,800	
施設整備等活動資金支出計	26,900	
差引	△8,932	
調整勘定等	92	
施設整備等活動資金収支差額(B)	△8,840	
小計(A)+(B)	△410	
その他の活動による資金収支	収入	
	第3号基本金引当特定資産取崩収入	5,874
	退職給与引当特定資産取崩収入	2,316
	教職員年金引当特定資産取崩収入	17
	受取利息・配当金収入	954
	その他の収入	638
	その他の活動資金収入計	9,799
	支出	
	借入金等返済支出	147
	第3号基本金引当特定資産繰入支出	5,900
退職給与引当特定資産繰入支出	2,300	
借入金等利息支出	9	
その他の支出	347	
その他の活動資金支出計	8,703	
差引	1,096	
調整勘定等	0	
その他の活動資金収支差額(C)	1,096	
小計(A)+(B)+(C)	686	
前年度繰越支払資金	25,132	
翌年度繰越支払資金	25,818	

資産運用のリスクに対応するために

学校法人の資産は教育研究活動を安定的・継続的に支えるための大切な財産であり、資産の運用に際しては、安全性が強く求められます。そのため、学校法人同志社では、資産運用の対象や基準

を定めるとともに、資産運用委員会を設け、運用計画の立案、運用状況の管理、運用結果の点検などを行い、その内容を適宜理事会に報告しています。特に2007年夏以降、米国のサブプライムロー

ン問題を契機に始まった世界的な金融危機により、運用資産(債券)の時価が下落するなど運用リスクが高まったため、「有価証券の評価換え」ならびに「運用債券の損失時の対応」に関する取り扱いを定め、適切な運用管理に努めています。

事業活動収支計算書

表3 2015(平成27)年度 法人総合事業活動収支計算書

(単位:百万円)

科目		予算	決算	差異	科目		予算	決算	差異		
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	47,818	47,920	△102	特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	0
		手数料	2,155	2,242	△87			その他の特別収入	442	802	△360
		寄付金	299	393	△94			うち 施設設備寄付金・現物寄付	151	354	△203
		経常費等補助金	5,662	5,413	249			うち 施設設備補助金	290	433	△143
		付随事業収入	1,198	1,372	△174			特別収入計	442	802	△360
		雑収入	961	1,084	△123			支出の部	資産処分差額	52	127
	教育活動収入計	58,093	58,424	△331	その他の特別支出		1		13	△12	
	支出の部	人件費	30,956	30,799	157		特別支出計		53	140	△87
		教育研究経費	23,420	22,898	522		特別収支差額		389	662	△273
		うち 減価償却額	5,969	5,968	1		予備費	120	0	120	
管理経費		2,986	3,003	△17	基本金組入前当年度収支差額	1,832	3,257	△1,425			
うち 減価償却額		265	265	0	基本金組入額合計	△5,714	△4,379	△1,335			
徴収不能額等		74	74	0	第1号基本金組入額	△3,801	△2,365	△1,436			
教育活動支出計	57,436	56,774	662	第2号基本金組入額	△1,800	△1,900	100				
教育活動収支差額	657	1,650	△993	第3号基本金組入額	△25	△26	1				
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	915	954	△39	第4号基本金組入額	△88	△88	0		
		その他の教育活動収入	0	0	0	当年度収支差額	△3,882	△1,122	△2,760		
		教育活動外収入計	915	954	△39	前年度繰越収支差額	△30,144	△30,144	0		
	支出の部	借入金利息	9	9	0	基本金取崩額	199	194	5		
		その他の教育活動支出	0	0	0	翌年度繰越収支差額	△33,827	△31,072	△2,755		
		教育活動外支出計	9	9	0	(参考)					
		教育活動外収支差額	906	945	△39	事業活動収入計	59,450	60,180	△730		
	経常収支差額	1,563	2,595	△1,032	事業活動支出計	57,618	56,923	695			

ファクトブックに、中科目かつ円単位で表示した事業活動収支計算書を掲載しています。

2015年度法人総合事業活動収支計算書は表3のとおりです。

([]内は予算比: +は増加、△は減少)

(1) 事業活動収入計

601億8,000万円(+7億3,000万円)

学生生徒等納付金、付随事業収入、雑収入、その他の特別収入等の増収により、予算比1.2%の増加となりました。前年度と比べると、1億1,600万円、0.2%減となっています。

(2) 基本金組入額合計

43億7,900万円(+13億3,500万円)

第1号基本金組入額

23億6,500万円(△14億3,600万円)

当年度の固定資産増加額は施設および設備関係支出、現物寄付で65億9,900万円、過年度事業にかかわる借入金等返済支出は1億4,700万円となり、一方で施設や設備の更新による当期除却高は34億1,400万円、過年度に組み入れた第2号基本金からの振替額は7億8,000万円となっています。

第2号基本金組入額

19億円(+1億円)

将来に教学施設設備などを取得するため、計画に基づいて資金の組入を行いました。

第3号基本金組入額

2,600万円(+100万円)

奨学事業に宛てた寄付金の組入や、教育研究事業を継続的に維持するため設定した基金への組入などです。

第4号基本金組入額

8,800万円(予算どおり)

基本金明細はファクトブックに掲載しています。

(3) 事業活動支出計

569億2,300万円(△6億9,500万円)

管理経費や、建物等償却資産除却による7,500万円を含む資産処分差額でも予算を上回りましたが、教育研究経費は、予算執行残や節減などにより、予算内に収まりました。事業活動支出は予算に対して1.2%の減少となり、前年度に比べると4億500万円、0.7%増となっています。

(4) 当年度収支差額

△11億2,200万円

事業活動収入が増収となる一方、基本

金組入と事業活動支出が減少したことから、収支差額は依然支出超過ではあるものの、予算に対して27億6,000万円改善しました。

翌年度繰越収支差額

△310億7,200万円

収支の推移

図3は収支の均衡状態の推移を示したものです。

事業活動収入は堅調に増加し、支出では大規模な建設事業を行った年度で基本金組入額が増加しています。

図4、5は事業活動収入と事業活動支出の主な科目の伸び率です。

事業活動収入では、学生生徒等納付金はなだらかな上昇カーブを描いています。手数料も、安定した入学志願者を確保しています。付随事業収入の伸びは、受託研究事業など産官学連携の進展によります。

事業活動支出では、教育研究活動の活性化を反映して教育研究経費が伸び、学部・研究科の新設や計画的な教員増員により人件費が増加しています。

図1 事業活動収入の構成比

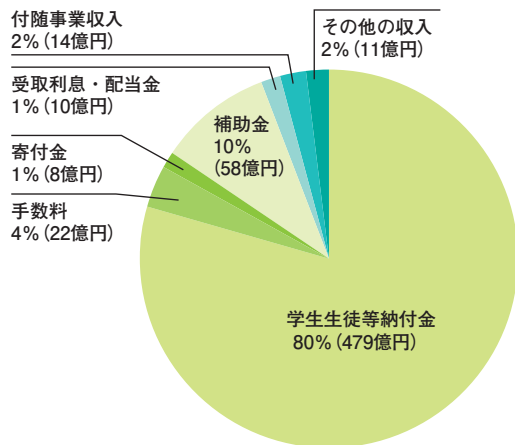


図2 事業活動支出+基本金組入額の構成比

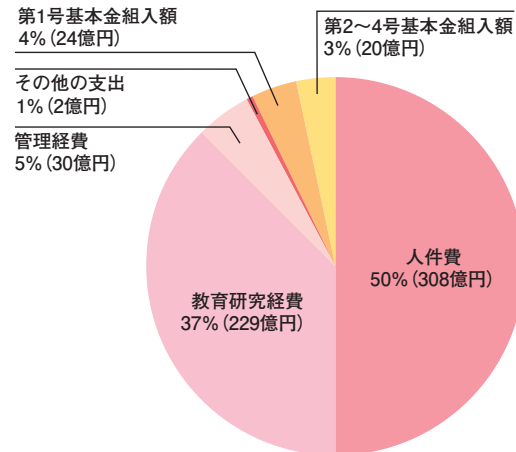
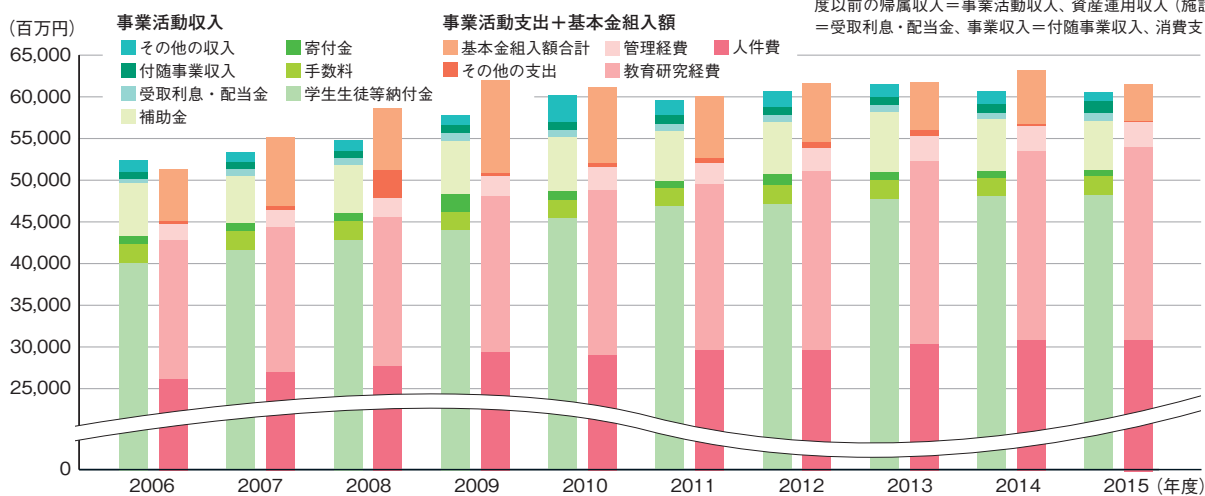


図3 収支の推移



学校会計の用語解説

学校法人会計基準に基づいて作成する財務計算書類は、主要なものとして資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表の3種類があります。この3種類に加えて、付属の表として活動区分資金収支計算書を掲載しています。

資金収支計算書

当該年度の支払資金の期末、すなわち学校法人の1年間の諸活動に伴うお金の動きを網羅したものです。

活動区分資金収支計算書

資金収支計算書を3つの活動区分（教育活動、施設整備等活動、その他の活動）ごとの収支に組み替えて、各々の活動の資金の流れを表したものです。教育活動による資金収支は、キャッシュベースによる本業の教育研究活動の収支状況です。施設整備等活動による資金収支は、当年度の施設設備の整備にかかる支出とその財源を表しています。その他の活動による資金収支は、借入金や資金運用などの財務活動です。

事業活動収支計算書

当該年度の経常的な事業活動（教育活動収支、教育活動外収支）と臨時的な事業活動（特別収支）に区分して、それぞれの経営状況及び収支の均衡状態を表したものです。教育活動収支は、学校本来の経常的な教育研究活動にかかる収入及び支出です。教育活動外収支は、経常的な財務活動及び収益事業の活動にかかる収入及び支出です。特別収支は、施設設

備の整備などにかかる臨時的な収入及び支出です。

貸借対照表

一定時点（3月末現在）の財産の状態を明らかにするものです。

計算書で使用する用語とその意味は次のとおりです。

教育研究経費と管理経費

物件費は、直接教育研究に要するものとそれ以外の経費に分類します。前者を教育研究経費、後者を管理経費といいます。管理経費に該当するものは、役員の業務執行、総務・人事・財務・経理その他法人業務、教職員の福利厚生、学生募集、食堂や売店、学寮（全寮制を除く）に要する経費などです。

事業活動収入

事業活動収支計算書の教育活動収支・教育活動外収支・特別収支の収入の部を合計したものです。当該年度のうち、学校法人の負債とならない収入をいいます。したがって借入金、前受金、預り金などは含まれません。

事業活動支出

事業活動収支計算書の教育活動収支・教育活動外収支・特別収支の支出の部と予備費を合計したものです。人件費、物件費、減価償却額、借入金利息など当該年度に消費する支出です。

基本金組入額

基本金とは、学校法人がその諸活動の計画に基

づいて継続的に維持すべき資産で、下記の第1号から第4号に該当するものです。これは事業活動収入と事業活動支出の差額（＝基本金組入前当年度収支差額）の中から充当します。これを基本金の組入（くみいれ）といいます。第1号基本金は自己資金による土地、建物、設備などの固定資産の取得額、第2号基本金は将来の固定資産取得に備えた資金の先行組入額、第3号基本金は基金の積立額、第4号基本金は恒常的に保持すべきものとされる1か月分の運転資金相当額です。

当年度収支差額

事業活動収入と事業活動支出の差額（＝基本金組入前当年度収支差額）から基本金組入額を控除した額で、当年度の財政の均衡状態を表します。これがマイナスであると、支出超過いわゆる赤字で、収支が均衡せず資金不足となっていることを示します。

学校会計と企業会計

企業会計で作成する主な計算書類はキャッシュフロー計算書、損益計算書、貸借対照表です。これに対し、学校会計では資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表を作成します。企業会計の計算書類の主な目的は経営成績を明らかにして利益を測定することですが、学校会計の計算書類では収支の対応を明示して財政の均衡状態を表すことに主眼が置かれています。学校法人の使命は利益の追求ではなく教育研究の永続的な充実発展であることから、財政基盤の安定を重視しています。

図4 事業活動収入の伸び率

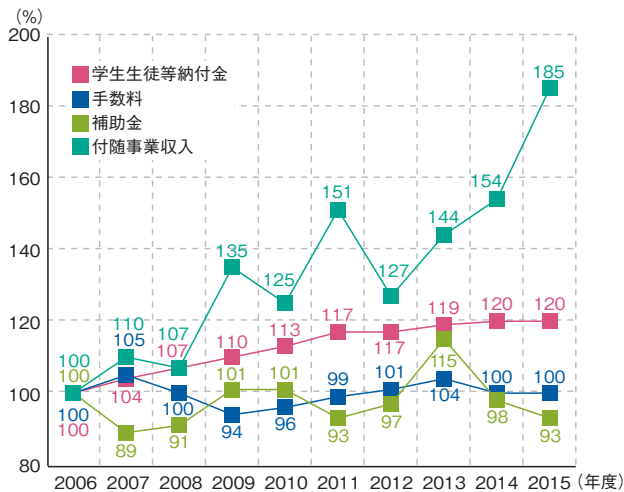
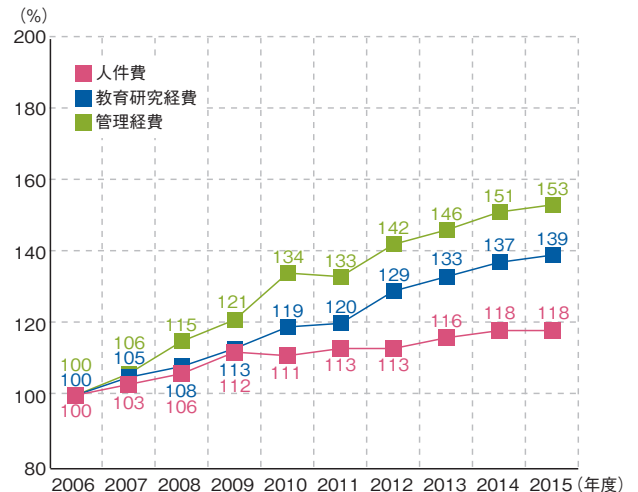


図5 事業活動支出の伸び率



※2015年度からの学校法人会計基準の一部改正に伴い、2014年度以前については次のとおり基準改正後の科目に組み替えて表示しています。
2014年度以前の帰属収入＝事業活動収入、資産運用収入（施設設備利用料を除く）＝受取利息・配当金、事業収入＝付随事業収入、消費支出＝事業活動支出

貸借対照表

表4 法人総合貸借対照表

2016(平成28)年3月31日現在
(単位:百万円)

資産の部				負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減	科目	本年度末	前年度末	増減
[固定資産]	220,878	217,887	2,991	[固定負債]	15,346	15,566	△ 220
(有形固定資産)	139,449	139,477	△ 28	長期借入金	180	327	△ 147
土地	18,753	18,753	0	長期未払金	112	150	△ 38
建物	85,550	83,383	2,167	退職給与引当金	15,035	15,053	△ 18
構築物	4,768	4,889	△ 121	教職員年金引当金	0	17	△ 17
教育研究用機器備品	12,537	12,554	△ 17	受入保証金	19	19	0
管理用機器備品	154	163	△ 9	[流動負債]	13,710	12,994	716
図書	17,213	16,856	357	短期借入金	147	147	0
車両・舟艇・航空機	10	5	5	未払金	1,834	1,235	599
建設仮勘定	464	2,874	△ 2,410	前受金	10,520	10,367	153
(特定資産)	76,311	73,201	3,110	預り金	1,052	1,090	△ 38
第2号基本金引当特定資産	7,850	6,730	1,120	修学旅行費預り金	146	148	△ 2
第3号基本金引当特定資産	19,426	19,400	26	仮受金	11	7	4
退職給与引当特定資産	15,035	15,054	△ 19	負債の部合計	29,056	28,560	496
減価償却引当特定資産	34,000	32,000	2,000	純資産の部			
教職員年金引当特定資産	0	17	△ 17	科目	本年度末	前年度末	増減
(その他の固定資産)	5,118	5,209	△ 91	[基本金]	250,579	246,395	4,184
借地権	208	208	0	第1号基本金	219,267	216,317	2,950
電話加入権	20	20	0	第2号基本金	7,850	6,730	1,120
施設利用権	20	20	0	第3号基本金	19,426	19,400	26
ソフトウェア	241	215	26	第4号基本金	4,036	3,948	88
ソフトウェア仮勘定	291	47	244	[繰越収支差額]	△ 31,072	△ 30,144	△ 928
有価証券	20	20	0	(翌年度繰越収支差額)	△ 31,072	△ 30,144	△ 928
長期貸付金	4,249	4,608	△ 359	前年度繰越収支差額	△ 30,144	△ 27,552	△ 2,592
支払保証金	68	70	△ 2	当年度収支差額	△ 928	△ 2,592	1,664
出資金	1	1	0	純資産の部合計	219,507	216,251	3,256
[流動資産]	27,685	26,924	761	負債および純資産の部合計	248,563	244,811	3,752
現金預金	25,818	25,132	686	減価償却額の累計額の合計額	80,725		
未収入金	1,064	1,228	△ 164	基本金未組入額	811		
短期貸付金	0	0	0				
前払金	527	293	234				
仮払金	130	123	7				
修学旅行費預り資産	146	148	△ 2				
資産の部合計	248,563	244,811	3,752				

ファクトブックに、円単位で表示した貸借対照表
および学校法人会計基準に基づく注記事項を掲載しています。

2015年度法人総合貸借対照表は表4のとおりです。図6は過去10年間の貸借対照表推移をグラフ化したものです。収支差額は支出超過であるため、棒グラフの基本金の先端部分に網掛けで表現しており、この部分が資金不足額となります。

(1) 資産の部

固定資産のうち有形固定資産は、教育研究活動の拠点となる土地、建物、構築物や機器備品の整備充実により増加してきました。07年度は大学医心館、磐上館、08年度は大学継志館の取得、女子大学純正館、中学校・高等学校桑志館、恵潤館、09年度は大学多々羅キャンパスの取得、中学校・高等学校立志館、10年度は、大学烏丸キャンパスの取得、国際学院抱志館、香里中学校・高等学校新特別教室棟、12年度は、大学良心館、志高館、香里中

学校・高等学校尚志館、香友館、14年度は訪知館、言館、光館、15年度は希望館建設などによるものです。

特定資産は、第2号基本金、第3号基本金、減価償却の引当資産を増額しました。この結果、本年度末の固定資産総額は前年度比1.4%増の2,208億7,800万円となりました。

流動資産は、現金預金、未収入金などで、本年度末は前年度比2.8%増の276億8,500万円です。

(2) 負債・純資産の部

固定負債のうち長期借入金は、計画的な返済により着実に減少を続け、残高は10年前の1/20程度となりました。退職給与引当金は、期末要支給額の100%を引き当てています。

流動負債は新入生学費の前受金が大部

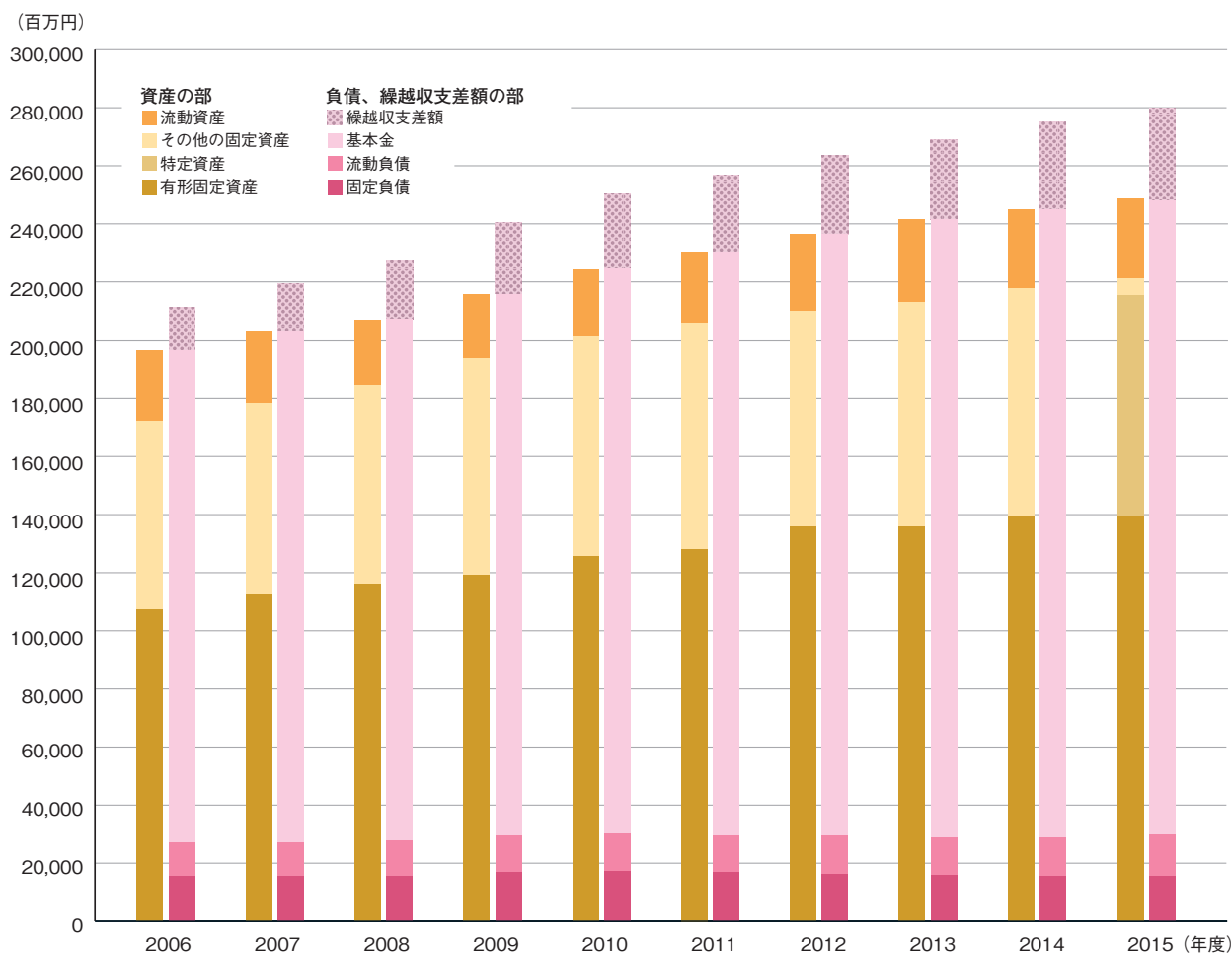
分を占めています。

基本金は、第1号基本金が自己資金による固定資産の取得と借入金の返済などで前年度比1.4%増の2,192億6,700万円、第2号基本金は計画に基づく組入と建設事業への充当により前年度比16.6%増の78億5,000万円、第3号基本金は前年度比0.1%増の194億2,600万円、第4号基本金は前年度比2.2%増の40億3,600万円となっています。

収支差額は、事業活動収入が堅調に推移している一方で、大規模な建設事業を自己資金で賄っているため支出超過となり、この結果翌年度に繰り越す支出超過額は310億7,200万円となりました。

また、減価償却額累計額は807億2,500万円となっています。

図6 貸借対照表の推移



※2015年度からの学校法人会計基準の一部改正に伴い、基準改正後の科目に組み替えて表示しています。2014年度以前の消費収支差額＝繰越収支差額、2015年度から、その他の固定資産については、その他の固定資産と特定資産に分けて表示しています。

財務比率

財務比率は、計算書の科目間の比率を算出して、経年変化の追跡や全国平均との比較を行い、財政状況の分析に利用するものです。表5、6は本学の過去10年間の推移と全国平均の比較です。

収支計算書関係比率について本学の指標値を全国平均と比較すると、学生生徒等納付金比率は高く、補助金比率は低めで、学費への依存度が比較的高い収入構造となっています。経費に関する比率では、低い方がよいとされる人件費比率は全国平均を上回っていますが、管理経費比率は全国平均内にあります。また教育研究経費比率は教育研究の充実度を表し、高い方が望ましいとされており、本学は

全国平均を上回っています。

学校法人は収支差額の中から基本金組入額を賄うため、事業活動収支差額比率は10%以上が望ましいとされています。本学の比率は08年度を除き、12年度までは10%以上で推移していましたが、事業活動支出の増加が事業活動収入の伸びを上回り、近年は10%を下回っています。

貸借対照表関係比率では、固定比率や固定長期適合率で土地、施設設備などの固定資産が自己資金で賄えているかどうかを見ます。負債比率や総負債比率は、自己資金に対する負債、すなわち他人資金の割合です。また、基本金比率は、基本金組入の対象となる資産に対して組み

入れ済みの基本金がどれだけあるかを示すものです。

流動比率は、各種引当資産の充実と資金運用の効率化を図り、201.9%となっています。また、新規建設事業は借入金に依存せず自己資金で行っており、基本金比率も着実に増加しています。

教学組織の新設、施設設備の充実など活発な教学改革の影響から収支バランスが一時的に崩れる年度がありますが、自己資金の安定的確保、固定資産および基本金の充実、借入金等外部負債の減少の状況が指標値に表れています。

表5 消費収支計算書関係比率(2014年度以前)

(単位：%)

比率	算式(×100)	評価指標	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	全国平均
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	—	76.5	77.9	78.3	76.2	75.5	78.6	77.6	77.5	79.2	69.5
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	↑	1.8	1.8	1.7	3.6	1.9	1.5	2.3	1.5	1.4	3.9
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	↑	12.0	10.5	10.5	11.0	10.6	9.9	10.1	11.7	10.2	12.2
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	↓	50.2	50.7	50.7	50.9	48.4	49.9	48.9	49.4	51.0	50.9
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	↑	31.7	32.6	32.8	32.5	32.9	33.3	35.4	35.8	37.4	31.2
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	↓	3.8	4.0	4.2	4.1	4.4	4.4	4.6	4.7	4.9	9.0
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	↑	13.8	11.9	6.4	11.9	13.4	11.5	10.0	8.8	6.3	7.2

評価指標：↑高い値が良い 全国平均：「今日の私学財政」(日本私立学校振興・共済事業団)による医歯系法人を除く2014年度数値
↓低い値が良い

表6 貸借対照表関係比率(2014年度以前)

(単位：%)

比率	算式(×100)	評価指標	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	全国平均
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	↓	101.5	101.3	102.7	104.1	103.7	102.3	101.4	100.3	100.8	98.8
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}-\text{固定負債}}$	↓	93.1	93.2	94.6	95.4	95.3	94.4	94.0	93.4	94.0	91.3
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	↑	209.8	211.0	187.5	172.5	173.8	196.9	201.9	215.2	207.2	253.3
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	↓	16.0	15.4	15.4	15.9	15.7	14.6	14.2	13.6	13.2	14.3
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	↓	13.8	13.4	13.4	13.7	13.6	12.8	12.4	12.0	11.7	12.5
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	↑	98.1	98.4	98.7	98.9	99.0	99.2	99.4	99.5	99.7	97.1

評価指標：↑高い値が良い 全国平均：「今日の私学財政」(日本私立学校振興・共済事業団)による医歯系法人を除く2014年度数値
↓低い値が良い

事業活動収支計算書関係比率(2015年度以降)

(単位：%)

比率	算式(×100)	評価指標	2015
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	—	80.7
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	↑	1.2
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	↑	9.7
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	↓	51.9
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	↑	38.6
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	↓	5.1
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	↑	5.4

貸借対照表関係比率(2015年度以降)

(単位：%)

比率	算式(×100)	評価指標	2015
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	↓	100.6
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}+\text{固定負債}}$	↓	94.0
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	↑	201.9
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	↓	13.2
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	↓	11.7
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	↑	99.7

■ 学校別の状況

各学校の収支状況を表7「学校別収支計算書」によって説明します。

大学では、学生生徒等納付金、手数料、寄付金、付随事業・収益事業収入、雑収入等の増収はありましたが、事業活動収入合計は408億4,100万円と前年度に比べて0.04%減となりました。基本金組入額は、今出川校地耐震改修工事、京田辺校地サッカー場、アメリカンフットボール場人工芝改修工事などの事業を実施し、将来の施設整備のための第2号基本金とあわせて21億1,400万円となりました。

事業活動支出は、教育研究経費および管理経費の予算執行残などにより、総額では予算額を下回りました。管理経費、施設等除却による資産処分差額では予算を上回りましたが、合計では387億6,800万円と前年度に比べて0.5%増となり、この結果、4,100万円の支出超過となりました。

女子大学では、学生生徒等納付金、寄

付金、雑収入などの増収により、事業活動収入合計は105億7,600万円と前年度に比べて0.1%減となりました。基本金組入額は、今出川キャンパス整備事業等を実施し、第2号基本金とあわせて12億8,500万円となりました。

事業活動支出は、教育研究経費は建設仮勘定支出からの振替により、合計では95億9,100万円と前年度と比べ5.1%増となり、この結果、3億円の支出超過となりました。

各中学校・高等学校、小学校、国際学院、幼稚園では、学生生徒等納付金において、香里中学校・高等学校、国際学院では、前年度に比べて増収となり、他の学校でも前年度並みの収入を確保しています。補助金は、香里中学校・高等学校、小学校、幼稚園では、予算見込み額から増収になりました。基本金組入額は、中学校・高等学校で、南体育館および付属棟のための第2号基本金とあわせて2億3,500万円、女子中学校・高等学校で、新

校舎建設事業を実施し4億5,900万円を組入れています。

法人部勘定では、各学校の建設事業資金の法人内での資金調達額および償還額を繰入金と繰出金に計上しています。

特別会計では、年金会計、住宅会計を計上しています。

収支計算書について

この計算書は学校法人会計基準による事業活動収支内訳表の体裁をとりつつも、部門間のみなし配分を避け、内部取引の収支を明らかにする目的で、計上方法を一部変更しています。

すなわち、学校法人部門は大学に、新設学部等の開設前の収支は、それぞれの設置校に含めています。各中学校・高等学校は、中学校、高等学校の合計額で、大学附属の小学校、国際学院も独立した部門として表示しています。また、内部取引の各校認識額については繰入金・繰出金に、法人に係る経費の各校分担額は分担金(支出)に計上しています。

表7 2015(平成27)年度 学校別収支計算書

(単位：百万円)

	大学	女子大学	中高	国際中高	香里中高	女子中高	小学校	国際学院	幼稚園	法人部勘定	特別会計	合計
学生生徒等納付金	32,177	9,347	1,775	1,019	1,242	1,304	537	465	54			47,920
手数料	1,799	356	17	21	25	18	3	2	1			2,242
寄付金	396	76	42	39	17	119	33	8	17			747
補助金	3,592	375	482	237	582	378	114	65	21			5,846
受取利息・配当金	750	141	10	4	9	8	5	1	2		24	954
資産売却差額												
付随事業・収益事業収入	1,141	60		89			65	17				1,372
雑収入	840	119	43	37	31	5	1	5	4		14	1,099
繰出金	35	102	19	11	14	412	7	1	1	409		1,011
分担金	111											111
事業活動収入合計	40,841	10,576	2,388	1,457	1,920	2,244	765	564	100	409	38	61,302
基本金組入額合計	△ 2,114	△ 1,285	△ 235	△ 91	△ 162	△ 459		△ 30	△ 3			△ 4,379
収入の部合計	38,727	9,291	2,153	1,366	1,758	1,785	765	534	97	409	38	56,923
人件費	20,357	4,758	1,452	1,008	1,100	991	424	648	61			30,799
教育研究経費	16,266	3,897	738	315	506	623	294	245	14			22,898
管理経費	1,815	833	73	118	50	47	16	61	3			3,016
借入金等利息	3		1	2	3							9
資産処分差額	105	20	1	1								127
徴収不能額等	73		1									74
繰入金	149	2	180	102	132	8				400	38	1,011
分担金		81	10	6	7	7						111
事業活動支出の部合計	38,768	9,591	2,456	1,552	1,798	1,676	734	954	78	400	38	58,045
当年度収支差額	△ 41	△ 300	△ 303	△ 186	△ 40	109	31	△ 420	19	9	0	△ 1,122

2016年度の事業計画

2016年度は以下のような新規事業を実施します。

【周年事業】

大学では、「同志社大学ビジョン2025」の6つの優先課題から具体的施策を検討し、中期目標を達成するまでのアクション・プランに取り組んでいきます。

女子大学では、創立150年を迎える2026年に向けた中長期計画「Vision150(仮称)」の策定を行います。

【教学組織】

大学では、グローバル教育センターを新設し、外国語による授業の実施と教養教育の充実を促進します。さらにグローバル・リベラルアーツ副専攻を置き、社会の変化や多様性に大胆かつ柔軟に対応することのできる人物の養成を目指します。

女子大学では、教育開発支援センターを設置し、アクティブ・ラーニングの推進とFD (Faculty Development) の実質化に取り組めます。また、大学院看護学研究科(仮称)開設に向けての準備を進めます。

【教育研究】

大学では、「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援 (Go Global Japan)」や「博士課程教育リーディングプログラム」の取り組みを引き続き推進し、グローバルな人物を育成する拠点として、本学の特性を生かした教育プログラムを展開し、世界で活躍するリーダーの教育を実践します。また、赤ちゃん学

研究センターの研究拠点化をはかります。

女子大学では、アジアの大学と新規に協定を結び、留学生の派遣や受け入れを拡大します。

各中学校・高等学校では、国際感覚に富み国際社会に貢献できる生徒の育成を目的とした立石ファンドを活用し、特色ある国際主義教育の取り組みを継続します。国際中学校・高等学校では、スーパーグローバルハイスクール委託事業に継続して取り組みます。

教育環境面では、大学で新教務システムの開発や統合運用管理システムのリプレースを行います。東京サテライト・キャンパスでは、東京と京都間で講義やセミナーを受講することが可能となるよう遠隔講義システムを導入します。また、教室等マルチメディア環境の整備や、京田辺校地での学習支援環境の整備充実に向けて取り組みます。

女子大学では、ユーザー管理システムのリプレースや、アクティブ・ラーニングでの活用を目指して、講義室や演習室、ラウンジ等のアメニティスペースでの無線LAN環境の整備充実を努めます。

女子中学校・高等学校では、すべての教室にプロジェクターを導入します。国際中学校・高等学校では、コミュニケーション・センターの環境整備のため、ノートパソコンやタブレットを更新します。

【学生生徒支援】

大学では、学生のボランティア活動を推進し支援することを目的として、ボラ

ンティア支援室を設置し、専門的な知識と経験を有したボランティアコーディネーターを配置します。京田辺会堂言館礼拝堂にはパイプオルガンを設置し、学生の精神的支柱となる各種プログラム等において活用します。多々羅キャンパスでは、テニスコート人工芝改修工事を行います。

女子大学では、学生証をICカードに更新し、利便性の向上をはかります。また各高等学校において、生徒が安心して勉学に専念できるように修学支援のための奨学金制度を継続します。

【建設事業】

大学では、年次整備計画に従い、尋真館の耐震改修工事を継続して行います。体育施設では、デイヴィス記念館各競技室の空調設備整備工事、カヌー部合宿所艇庫増築工事や馬術部厩舎改修工事、継志館では、給湯管改修工事、京田辺校地では、空調機器や昇降機、中央監視盤のライフサイクルによる更新工事を行います。

女子大学では、今出川キャンパス整備事業として新築真館建設工事等の他、京田辺キャンパス整備事業に着手し友和館改修等を行います。

中学校・高等学校では、チャペル天井改修工事、女子中学校・高等学校では、新校舎建設事業として黎明館と希望館を解体し、跡地を人工芝グラウンドとして整備、小学校では体育館天井改修工事を行います。

表8 2016(平成28)年度以降の収支見通し

(単位：百万円)

収入の部	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
学生生徒等納付金	47,310	47,092	46,620	46,052
手数料	2,143	2,104	2,104	2,103
寄付金	309	317	317	317
補助金	5,576	5,474	5,470	5,178
受取利息・配当金	440	462	463	463
付随事業・収益事業収入	596	926	927	927
雑収入	947	1,047	1,073	1,115
事業活動収入合計	57,321	57,422	56,974	56,155
基本金組入額合計	△ 4,639	△ 4,426	△ 3,969	△ 3,377
収入の部合計	52,682	52,996	53,005	52,778
人件費	31,554	31,724	31,766	31,859
教育研究経費	22,338	21,795	21,887	22,015
管理経費	2,753	2,740	2,740	2,741
借入金等利息	6	3	1	0
資産処分差額	272	0	0	0
徴収不能額等	86	71	71	71
予備費	353	112	111	111
事業活動支出の部合計	57,362	56,445	56,576	56,797
基本金取崩額	186	0	0	0
当年度収支差額	△ 4,494	△ 3,449	△ 3,571	△ 4,019

理事、監事、評議員

理事 (○印 理事長)

大谷 實 (総長)
松岡 敬 (大学長)
加賀 裕郎 (女子大学長)
木村 良己 中村 信博 (学校長等互選)
濱 直樹 木原 活信 松尾 博文 ○水谷 誠 (学校長等互選)
中村 友二 西澤 由隆 玉村 三保子 (評議員互選)
井上 礼之 千田 衛 立石 義雄 (学識経験者)

監事

長谷川正治 植田 弘 鶴飼 哲夫

評議員 (○印 議長)

圓月 優子 藤本 千佳 平松 譲二 今里 滋 木原 活信
小嶋 眞 松尾 博文 宮崎 興也 望月 慶子 西澤 由隆
瀬川 貴之 園田 毅 田中 康博 龍城 正明 ○上田 慧 (教職員互選)
船越 照平 濱 直樹 井上 幸男 小嶋 淳司 南 美樹 (教職員互選)
中村 公紀 中村 友二 坂 光司 上野 道雄 山下 泰生 (校友会選定)
柳井 繁彌 清水久美子 玉村 三保子 余田由香利 (同窓会選定)
加賀由起子 東 信行 川井 国孝 児玉 實英 水谷 誠 望月 修治 (同窓会選定)
中井 晨 大橋 寛治 (理事会選定)

2016年4月現在

沿革

1875 (明治 8) 年 11月 29日	官許「同志社英学校」を開校 新島襄初代社長に就任	1951 (昭和26) 年 3月 9月	[大学] 教養学部解散 (1948年4月発足) 香里学園を合併し、香里中学校、 高等学校を開校
1876 (明治 9) 年 9月 10月	今出川校地 (相国寺門前の薩摩藩邸跡) に 校舎、食堂を建て寺町から移る 京都御苑内の旧柳原邸 (現・京都迎賓館の一部) で女子塾を開設	1953 (昭和28) 年 4月 1954 (昭和29) 年 4月	[大学] 大学院博士課程開設 [大学] 短期大学部を發展的に解消、大学2部 (4年制) (文・法・経済・商・工各学部) 開設
1877 (明治10) 年 4月 9月	同志社分校女紅場を開設 女紅場を同志社女学校と改称	1955 (昭和30) 年 4月 1967 (昭和42) 年 4月 1968 (昭和43) 年 4月 1975 (昭和50) 年 4月	[大学] 工学研究科修士課程開設 [女子大学] 文学研究科修士課程開設 [女子大学] 家政学研究科修士課程開設 創立100周年を迎え、記念事業を行う [女子大学] 文学研究科博士後期課程開設
1883 (明治16) 年 2月	「同志社社則」を制定	1976 (昭和51) 年 3月 1980 (昭和55) 年 4月 1986 (昭和61) 年 4月	商業高等学校廃校 国際高等学校開校 田辺校地 (現・京田辺校地) 開校 大学・女子大学の授業開始 [女子大学] 短期大学部開設
1884 (明治17) 年 4月 9月	新島、2度目の海外旅行に出発 (翌年12月帰国) 同志社最初の煉瓦建築、彰栄館竣工 (国の重要文化財)	1988 (昭和63) 年 4月 1989 (平成元) 年 4月 1991 (平成 3) 年 4月 1994 (平成 6) 年 4月	国際中学校開校 [女子大学] 学芸学部を日本語日本文学科開設 [大学] アメリカ研究科開設 [大学] 工学部、および工学研究科、 理工学研究所を田辺校地 (現・京田辺校地) に統合移転
1886 (明治19) 年 6月 1887 (明治20) 年 11月	新礼拝堂 (チャペル) 竣工 (国の重要文化財) 書籍館 (現・有終館) 開館 (国の重要文化財) 同志社病院・京都看病婦学校の開校、開校式	1995 (平成 7) 年 4月 1997 (平成 9) 年 4月 1999 (平成11) 年 4月 2000 (平成12) 年 4月 2002 (平成14) 年 4月 2004 (平成16) 年 4月	[大学] 総合政策科学研究科開設 [大学] 昼夜開講制を実施 [大学] 留學生別科開設 創立125周年を迎え記念事業を行う [女子大学] 現代社会学部開設、短期大学部募集停止 [女子大学] 学芸学部情報メディア学科開設 [香里中学] 共学化 [大学] 政策学部開設 工学部に情報システムデザイン学科、 環境システム学科開設 司法研究科 (法科大学院) 開設 ビジネス研究科 (ビジネススクール) 開設 [女子大学] 現代社会学部に 現代こども学科開設 国際社会学部システム研究科開設 創立130周年を迎え記念事業を行う [大学] 文学部・文学研究科を再編して 社会学部・社会学研究科開設 文化情報学部開設 [女子大学] 薬学部開設
1888 (明治21) 年 11月	「同志社大学設立の旨意」を 全国の主要雑誌・新聞に発表	2006 (平成18) 年 4月 2007 (平成19) 年 4月 2008 (平成20) 年 4月 2009 (平成21) 年 4月 2010 (平成22) 年 4月 2011 (平成23) 年 4月 2012 (平成24) 年 4月 2013 (平成25) 年 4月 2014 (平成26) 年 4月 2015 (平成27) 年 4月	同志社小学校開校 [大学] 文化情報学研究科開設 [女子大学] 学芸学部国際教養学科開設 [大学] 生命医科学部開設、スポーツ健康科学 部開設、工学部を再編し理工学部開設、 理工学部に数理システム学科開設、 生命医科学研究科開設 [大学] 心理学部・心理学研究科開設 [女子大学] 表象文化学部開設 創立135周年を迎え記念事業を行う [大学] スポーツ健康科学研究科開設、 グローバル・スタディーズ研究科開設 [中高] 中学校・高等学校統合 [大学] グローバル・コミュニケーション学部開設 同志社国際学院開校 [大学] 脳科学研究科開設 工学研究科を理工学研究科と改称 [女子大学] 薬学研究科開設 [大学] グローバル地域文化学部開設 [女子大学] 音楽専攻科開設 [大学] ビジネス研究科グローバル経営研究専攻 修士課程開設 創立140周年を迎え記念事業を行う [女子大学] 看護学部開設
1890 (明治23) 年 1月 23日 7月 9月	新島、静養先の神奈川県大磯にて永眠 (46歳) アメリカの実業家J.N.ハリスの10万ドルの 寄付によるハリス理化学館竣工 (国の重要文化財) ハリス理化学校開校	1999 (平成11) 年 4月 2000 (平成12) 年 4月 2002 (平成14) 年 4月 2004 (平成16) 年 4月	[大学] アメリカ研究科開設 [大学] 工学部、および工学研究科、 理工学研究所を田辺校地 (現・京田辺校地) に統合移転
1891 (明治24) 年 9月 1892 (明治25) 年 6月	政法学校開校 [女学校] 本科を普通科、高等科を 専門科 (師範科、文学科、神学科) に改める	1995 (平成 7) 年 4月 1997 (平成 9) 年 4月 1999 (平成11) 年 4月 2000 (平成12) 年 4月 2002 (平成14) 年 4月 2004 (平成16) 年 4月	[大学] 総合政策科学研究科開設 [大学] 昼夜開講制を実施 [大学] 留學生別科開設 創立125周年を迎え記念事業を行う [女子大学] 現代社会学部開設、短期大学部募集停止 [女子大学] 学芸学部情報メディア学科開設 [香里中学] 共学化 [大学] 政策学部開設 工学部に情報システムデザイン学科、 環境システム学科開設 司法研究科 (法科大学院) 開設 ビジネス研究科 (ビジネススクール) 開設 [女子大学] 現代社会学部に 現代こども学科開設 国際社会学部システム研究科開設 創立130周年を迎え記念事業を行う [大学] 文学部・文学研究科を再編して 社会学部・社会学研究科開設 文化情報学部開設 [女子大学] 薬学部開設
1893 (明治26) 年 10月 1894 (明治27) 年 1月	同志社徽章 (校章) を制定 神学館 (現・クラーク記念館) 開館式 (国の重要文化財)	1995 (平成 7) 年 4月 1997 (平成 9) 年 4月 1999 (平成11) 年 4月 2000 (平成12) 年 4月 2002 (平成14) 年 4月 2004 (平成16) 年 4月	[大学] 総合政策科学研究科開設 [大学] 昼夜開講制を実施 [大学] 留學生別科開設 創立125周年を迎え記念事業を行う [女子大学] 現代社会学部開設、短期大学部募集停止 [女子大学] 学芸学部情報メディア学科開設 [香里中学] 共学化 [大学] 政策学部開設 工学部に情報システムデザイン学科、 環境システム学科開設 司法研究科 (法科大学院) 開設 ビジネス研究科 (ビジネススクール) 開設 [女子大学] 現代社会学部に 現代こども学科開設 国際社会学部システム研究科開設 創立130周年を迎え記念事業を行う [大学] 文学部・文学研究科を再編して 社会学部・社会学研究科開設 文化情報学部開設 [女子大学] 薬学部開設
1896 (明治29) 年 4月	普通学校を同志社高等普通学校と改称し、 新たに同志社尋常中学校を開校	1995 (平成 7) 年 4月 1997 (平成 9) 年 4月 1999 (平成11) 年 4月 2000 (平成12) 年 4月 2002 (平成14) 年 4月 2004 (平成16) 年 4月	[大学] 総合政策科学研究科開設 [大学] 昼夜開講制を実施 [大学] 留學生別科開設 創立125周年を迎え記念事業を行う [女子大学] 現代社会学部開設、短期大学部募集停止 [女子大学] 学芸学部情報メディア学科開設 [香里中学] 共学化 [大学] 政策学部開設 工学部に情報システムデザイン学科、 環境システム学科開設 司法研究科 (法科大学院) 開設 ビジネス研究科 (ビジネススクール) 開設 [女子大学] 現代社会学部に 現代こども学科開設 国際社会学部システム研究科開設 創立130周年を迎え記念事業を行う [大学] 文学部・文学研究科を再編して 社会学部・社会学研究科開設 文化情報学部開設 [女子大学] 薬学部開設
1897 (明治30) 年 3月	M.F.デントン、出町幼稚園 (現・同志社幼稚園) を開園	1995 (平成 7) 年 4月 1997 (平成 9) 年 4月 1999 (平成11) 年 4月 2000 (平成12) 年 4月 2002 (平成14) 年 4月 2004 (平成16) 年 4月	[大学] 総合政策科学研究科開設 [大学] 昼夜開講制を実施 [大学] 留學生別科開設 創立125周年を迎え記念事業を行う [女子大学] 現代社会学部開設、短期大学部募集停止 [女子大学] 学芸学部情報メディア学科開設 [香里中学] 共学化 [大学] 政策学部開設 工学部に情報システムデザイン学科、 環境システム学科開設 司法研究科 (法科大学院) 開設 ビジネス研究科 (ビジネススクール) 開設 [女子大学] 現代社会学部に 現代こども学科開設 国際社会学部システム研究科開設 創立130周年を迎え記念事業を行う [大学] 文学部・文学研究科を再編して 社会学部・社会学研究科開設 文化情報学部開設 [女子大学] 薬学部開設
1900 (明治33) 年 1901 (明治34) 年 3月	出町幼稚園を今出川幼稚園と改称 [女学校] 普通科を高等普通科と改め、 新たに専門学部を設置	1995 (平成 7) 年 4月 1997 (平成 9) 年 4月 1999 (平成11) 年 4月 2000 (平成12) 年 4月 2002 (平成14) 年 4月 2004 (平成16) 年 4月	[大学] 総合政策科学研究科開設 [大学] 昼夜開講制を実施 [大学] 留學生別科開設 創立125周年を迎え記念事業を行う [女子大学] 現代社会学部開設、短期大学部募集停止 [女子大学] 学芸学部情報メディア学科開設 [香里中学] 共学化 [大学] 政策学部開設 工学部に情報システムデザイン学科、 環境システム学科開設 司法研究科 (法科大学院) 開設 ビジネス研究科 (ビジネススクール) 開設 [女子大学] 現代社会学部に 現代こども学科開設 国際社会学部システム研究科開設 創立130周年を迎え記念事業を行う [大学] 文学部・文学研究科を再編して 社会学部・社会学研究科開設 文化情報学部開設 [女子大学] 薬学部開設
1904 (明治37) 年 4月	専門学校令による神学校と専門学校を開校 政法学校廃校	1995 (平成 7) 年 4月 1997 (平成 9) 年 4月 1999 (平成11) 年 4月 2000 (平成12) 年 4月 2002 (平成14) 年 4月 2004 (平成16) 年 4月	[大学] 総合政策科学研究科開設 [大学] 昼夜開講制を実施 [大学] 留學生別科開設 創立125周年を迎え記念事業を行う [女子大学] 現代社会学部開設、短期大学部募集停止 [女子大学] 学芸学部情報メディア学科開設 [香里中学] 共学化 [大学] 政策学部開設 工学部に情報システムデザイン学科、 環境システム学科開設 司法研究科 (法科大学院) 開設 ビジネス研究科 (ビジネススクール) 開設 [女子大学] 現代社会学部に 現代こども学科開設 国際社会学部システム研究科開設 創立130周年を迎え記念事業を行う [大学] 文学部・文学研究科を再編して 社会学部・社会学研究科開設 文化情報学部開設 [女子大学] 薬学部開設
1906 (明治39) 年 4月	同志社病院・京都看病婦学校閉鎖 ハリス理化学校廃校	1995 (平成 7) 年 4月 1997 (平成 9) 年 4月 1999 (平成11) 年 4月 2000 (平成12) 年 4月 2002 (平成14) 年 4月 2004 (平成16) 年 4月	[大学] 総合政策科学研究科開設 [大学] 昼夜開講制を実施 [大学] 留學生別科開設 創立125周年を迎え記念事業を行う [女子大学] 現代社会学部開設、短期大学部募集停止 [女子大学] 学芸学部情報メディア学科開設 [香里中学] 共学化 [大学] 政策学部開設 工学部に情報システムデザイン学科、 環境システム学科開設 司法研究科 (法科大学院) 開設 ビジネス研究科 (ビジネススクール) 開設 [女子大学] 現代社会学部に 現代こども学科開設 国際社会学部システム研究科開設 創立130周年を迎え記念事業を行う [大学] 文学部・文学研究科を再編して 社会学部・社会学研究科開設 文化情報学部開設 [女子大学] 薬学部開設
1908 (明治41) 年 1912 (明治45) 年 4月	同志社カレッジソングができる 専門学校令による同志社大学 (予科、神学部、政治経済学部、英文科)、 女学校専門学部 (英文科、家政科) を開校	1995 (平成 7) 年 4月 1997 (平成 9) 年 4月 1999 (平成11) 年 4月 2000 (平成12) 年 4月 2002 (平成14) 年 4月 2004 (平成16) 年 4月	[大学] 総合政策科学研究科開設 [大学] 昼夜開講制を実施 [大学] 留學生別科開設 創立125周年を迎え記念事業を行う [女子大学] 現代社会学部開設、短期大学部募集停止 [女子大学] 学芸学部情報メディア学科開設 [香里中学] 共学化 [大学] 政策学部開設 工学部に情報システムデザイン学科、 環境システム学科開設 司法研究科 (法科大学院) 開設 ビジネス研究科 (ビジネススクール) 開設 [女子大学] 現代社会学部に 現代こども学科開設 国際社会学部システム研究科開設 創立130周年を迎え記念事業を行う [大学] 文学部・文学研究科を再編して 社会学部・社会学研究科開設 文化情報学部開設 [女子大学] 薬学部開設
1920 (大正 9) 年 4月	大学令による同志社大学 (文学部、法学部、大学院、予科) の開校	1995 (平成 7) 年 4月 1997 (平成 9) 年 4月 1999 (平成11) 年 4月 2000 (平成12) 年 4月 2002 (平成14) 年 4月 2004 (平成16) 年 4月	[大学] 総合政策科学研究科開設 [大学] 昼夜開講制を実施 [大学] 留學生別科開設 創立125周年を迎え記念事業を行う [女子大学] 現代社会学部開設、短期大学部募集停止 [女子大学] 学芸学部情報メディア学科開設 [香里中学] 共学化 [大学] 政策学部開設 工学部に情報システムデザイン学科、 環境システム学科開設 司法研究科 (法科大学院) 開設 ビジネス研究科 (ビジネススクール) 開設 [女子大学] 現代社会学部に 現代こども学科開設 国際社会学部システム研究科開設 創立130周年を迎え記念事業を行う [大学] 文学部・文学研究科を再編して 社会学部・社会学研究科開設 文化情報学部開設 [女子大学] 薬学部開設
1922 (大正11) 年 4月	専門学校令による大学を専門学校 (神学部、英語師範部、高等商業部、 政治経済部) として再編成	1995 (平成 7) 年 4月 1997 (平成 9) 年 4月 1999 (平成11) 年 4月 2000 (平成12) 年 4月 2002 (平成14) 年 4月 2004 (平成16) 年 4月	[大学] 総合政策科学研究科開設 [大学] 昼夜開講制を実施 [大学] 留學生別科開設 創立125周年を迎え記念事業を行う [女子大学] 現代社会学部開設、短期大学部募集停止 [女子大学] 学芸学部情報メディア学科開設 [香里中学] 共学化 [大学] 政策学部開設 工学部に情報システムデザイン学科、 環境システム学科開設 司法研究科 (法科大学院) 開設 ビジネス研究科 (ビジネススクール) 開設 [女子大学] 現代社会学部に 現代こども学科開設 国際社会学部システム研究科開設 創立130周年を迎え記念事業を行う [大学] 文学部・文学研究科を再編して 社会学部・社会学研究科開設 文化情報学部開設 [女子大学] 薬学部開設
1928 (昭和 3) 年 1月 1929 (昭和 4) 年 4月 1930 (昭和 5) 年 6月 9月 12月	[女学校] 普通学部を女学校高等女学部と改称 [専門学校] 高等商業部を岩倉に移転 [女学校] 専門学部を女子専門学校と改称 [女学校] 普通学部を高等女学部と改称 [専門学校] 高等商業部を高等商業学校と改称	1995 (平成 7) 年 4月 1997 (平成 9) 年 4月 1999 (平成11) 年 4月 2000 (平成12) 年 4月 2002 (平成14) 年 4月 2004 (平成16) 年 4月	[大学] 総合政策科学研究科開設 [大学] 昼夜開講制を実施 [大学] 留學生別科開設 創立125周年を迎え記念事業を行う [女子大学] 現代社会学部開設、短期大学部募集停止 [女子大学] 学芸学部情報メディア学科開設 [香里中学] 共学化 [大学] 政策学部開設 工学部に情報システムデザイン学科、 環境システム学科開設 司法研究科 (法科大学院) 開設 ビジネス研究科 (ビジネススクール) 開設 [女子大学] 現代社会学部に 現代こども学科開設 国際社会学部システム研究科開設 創立130周年を迎え記念事業を行う [大学] 文学部・文学研究科を再編して 社会学部・社会学研究科開設 文化情報学部開設 [女子大学] 薬学部開設
1943 (昭和18) 年 4月 1944 (昭和19) 年 4月	中学校令による中学校開校 工業専門学校 (電気通信科、機械科、化学工業科) 開校	1995 (平成 7) 年 4月 1997 (平成 9) 年 4月 1999 (平成11) 年 4月 2000 (平成12) 年 4月 2002 (平成14) 年 4月 2004 (平成16) 年 4月	[大学] 総合政策科学研究科開設 [大学] 昼夜開講制を実施 [大学] 留學生別科開設 創立125周年を迎え記念事業を行う [女子大学] 現代社会学部開設、短期大学部募集停止 [女子大学] 学芸学部情報メディア学科開設 [香里中学] 共学化 [大学] 政策学部開設 工学部に情報システムデザイン学科、 環境システム学科開設 司法研究科 (法科大学院) 開設 ビジネス研究科 (ビジネススクール) 開設 [女子大学] 現代社会学部に 現代こども学科開設 国際社会学部システム研究科開設 創立130周年を迎え記念事業を行う [大学] 文学部・文学研究科を再編して 社会学部・社会学研究科開設 文化情報学部開設 [女子大学] 薬学部開設
1947 (昭和22) 年 4月 1948 (昭和23) 年 4月	新学制により新制中学校、女子中学校発足 新制大学 (神学部、文学部、法学部、経済学部) 新制高等学校、新制定時制商業高等学校、 新制女子高等学校を設置	1995 (平成 7) 年 4月 1997 (平成 9) 年 4月 1999 (平成11) 年 4月 2000 (平成12) 年 4月 2002 (平成14) 年 4月 2004 (平成16) 年 4月	[大学] 総合政策科学研究科開設 [大学] 昼夜開講制を実施 [大学] 留學生別科開設 創立125周年を迎え記念事業を行う [女子大学] 現代社会学部開設、短期大学部募集停止 [女子大学] 学芸学部情報メディア学科開設 [香里中学] 共学化 [大学] 政策学部開設 工学部に情報システムデザイン学科、 環境システム学科開設 司法研究科 (法科大学院) 開設 ビジネス研究科 (ビジネススクール) 開設 [女子大学] 現代社会学部に 現代こども学科開設 国際社会学部システム研究科開設 創立130周年を迎え記念事業を行う [大学] 文学部・文学研究科を再編して 社会学部・社会学研究科開設 文化情報学部開設 [女子大学] 薬学部開設
1949 (昭和24) 年 4月	商学部と工学部を新設し、大学は六学部となる 女子大学 (学芸学部) 開校 高等学校が岩倉校地へ移転	1995 (平成 7) 年 4月 1997 (平成 9) 年 4月 1999 (平成11) 年 4月 2000 (平成12) 年 4月 2002 (平成14) 年 4月 2004 (平成16) 年 4月	[大学] 総合政策科学研究科開設 [大学] 昼夜開講制を実施 [大学] 留學生別科開設 創立125周年を迎え記念事業を行う [女子大学] 現代社会学部開設、短期大学部募集停止 [女子大学] 学芸学部情報メディア学科開設 [香里中学] 共学化 [大学] 政策学部開設 工学部に情報システムデザイン学科、 環境システム学科開設 司法研究科 (法科大学院) 開設 ビジネス研究科 (ビジネススクール) 開設 [女子大学] 現代社会学部に 現代こども学科開設 国際社会学部システム研究科開設 創立130周年を迎え記念事業を行う [大学] 文学部・文学研究科を再編して 社会学部・社会学研究科開設 文化情報学部開設 [女子大学] 薬学部開設
1950 (昭和25) 年 4月	[大学] 大学院修士課程 (神・文・法・経済・商各研究科) を開設 [大学] 短期大学部 (夜間2年制) (英語・商経・工各学科) 開設	1995 (平成 7) 年 4月 1997 (平成 9) 年 4月 1999 (平成11) 年 4月 2000 (平成12) 年 4月 2002 (平成14) 年 4月 2004 (平成16) 年 4月	[大学] 総合政策科学研究科開設 [大学] 昼夜開講制を実施 [大学] 留學生別科開設 創立125周年を迎え記念事業を行う [女子大学] 現代社会学部開設、短期大学部募集停止 [女子大学] 学芸学部情報メディア学科開設 [香里中学] 共学化 [大学] 政策学部開設 工学部に情報システムデザイン学科、 環境システム学科開設 司法研究科 (法科大学院) 開設 ビジネス研究科 (ビジネススクール) 開設 [女子大学] 現代社会学部に 現代こども学科開設 国際社会学部システム研究科開設 創立130周年を迎え記念事業を行う [大学] 文学部・文学研究科を再編して 社会学部・社会学研究科開設 文化情報学部開設 [女子大学] 薬学部開設

2016年4月現在